Nev. 187
no. 331-2

女學雜誌

第三百三拾壹號

乙の巻

明治二十五年
十一月十二日發兌

注意

○社說宣教師派女學校に一策を献ず(中) ○雜錄今昔ものがたり(名と人と。其角の者と秀詠。法文は簡易明晰を主とす可し。京と江戸の衣裳競べ。律義者と武邊)。○沙翁曲中の淑女 ○論說朝鮮に於て爲す可き日本婦人の事業(在仁川、青山好惠) ○家政家兎の飼養法○家內重寶錄(金柑水を製する法。飯の炊ぎやう。茶飯。粟飯。壜の汚を去る。馬鈴薯の貯方。肉の貯方。牛の舌。魚の貯方。串海鼠。牛乳の腐れ。醬油の黴。しやうゆんのだし。椎茸。牛乳の甘味。衣物に油のつきたる。) ○茶話會(茶話會上の心得。竈に近き壁。老人の居間。天井の板。傘を乾す心得。湯に浴しのぼせぬ法。坂を登る法。○家庭の養鷄 ○黃金の砂二三(ビスケット製法。肉ぞうすい。揚物新料理法。きらづ。○摘要報知新聞の婦人問題○歷史上女の觀察 ○史傳松坂富子。石川阿石 ○小說朝顏(絕ゆる緣)手習屋主人 ○時事○女報○問答○附錄(孤兒之友)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 331. NOVEMBER 12th. 1892.

EDITORIAL:—A Word to the Mission Schools.

MISCELLANEOUS:—Yesterday and Today. Ideal Women in Shakespeare.

LEADING ARTICLES:—Work for Japanese Women in Corea.

THE HOUSEHOLD:—How to Keep Rabbits. The House-keepers Manual. Tabletalk. Poultry. Golddust.

EXTRACTS:—The Woman Question of the "Hōchi News." Historical Views of Women. Fire from a Cigar.

BIOGRAPHY

NOVEL.

CURRENT EVENTS.

CONCERNING WOMEN.

QUESTIONS AND ANSWERS.

本號(第三百三十一號)目次

○社説 ○雜錄 ○論説 ○家政 ○摘要 ○史傳 ○小説 ○時事 ○女報 ○問答

宣教師派遣女學校に一策を献ず（中）

今昔ものがたり（名と人と。其角の機智。ものには餘韻ありたき事。從者と秀詠。法文は簡易明晰を主とすべし。京と江戸の衣裳競べ。律義者と武邊）○沙翁曲中の淑女

朝鮮に於て爲す可き日本婦人の事業（在仁川、青山好惠）

家兎の飼養法○家内重寶錄（金柑水を製する法。飯の炊ぎやう。茶飯。栗飯。鹽の汚を去る。馬鈴薯の貯方。肉の煑方。牛の舌。魚の煑方。串海鼠。牛乳の腐れ。醬油の黴。しやうゞんのだし。椎茸。牛乳の甘味。衣物に油のつきたる）○茶話會（會話上の心得。竈に近き壁。老人の居間。天井の板。傘を乾す心得。湯に浴しのぼせぬ法。坂を登る法）○家庭の養鷄。○黄金の砂二三（ビスケット製法。肉ぞうすい。揚物新料理法。きらづ。

報知新聞の婦人問題 ○歷史上女の觀察

松坂富子 ○石川阿石

朝顏（絕ゆる緣）手習屋主人

○附錄（孤兒之友）

前週(第三百三十號)白表

○社説 英雄辨（ヒーロイズム、英雄の需要英雄の流行、無英雄眞天地）

○批評 德川十五代史 ○近江聖人 ○紀文大盡 ○伊太利建國三傑 ○青年と教育 ○大西文學士香川景樹の歌論に對する批評（雲峯子）○關東聲凱歌（透谷子）

○論説 武道の發源（東洋に坐禪の國あり）○震災后一周年の感（山月子）

○雜錄 鬼心、非鬼心（脫蟬子）○豐秋に凶荒を想ひ震災を憶ふ（畜鋤子）

○時事 最大恨事 ○村橋久成氏 ○新しき四男爵 ○開墾の偉業 ○新内藏頭 ○報知社長老 ○この下露 ○德川家康論 ○代言人試驗 ○二新聞無罪 ○公會議の妙 ○法界悲風 ○脩身教科書 ○福澤翁銅像 ○大村益二郎 ○大演習 ○國民之友 ○北海屯田兵

○片々

前々週(第三百三十一號)赤表

●社説 震災一周年（孤女學院を憶ふの感）○震地傳道隊

●小説 朝顏（遺言）（手習屋主人）

●史傳 臨終の母ウイラード

●兒鑑 吾宿の花（第七回の中）若松しづ子

●家政 おさつの料理法數種○料理上の心得○茶話會（訪問の順序、湯風呂の位置、井筒の用材、土藏の用意、器物は實用を主とすべし、臨時の風塞ぎ、牛乳と石灰水、人乳より牛乳への移らせ方）○小金の砂二つ三つ（松茸の調理法、天麩羅の調理法、鰯の洗ひ調理法、湯豆腐の新調理法、柿の澁を拔く法）○シヤレ一ツ○

●雜錄 似非物語（ひさご）○今昔ものがたり（人間の果報もの丶巧者、（器の用ひ方）（樂二ッ）

●摘要

●批評

●女報

●孤兒之友

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百卅一號 明治二十五年十一月十二日發兌

社説

宣教師派女學校に一策を獻ず（中）

官立及び私立の女學校に短所病所兼ね存すると斯の如くなるに引換え、宣教師派の女學校には、幾多の長所美所を併せ存す。此は必らずしも其教育法の良きとを言ふにはあらず、學校の成立、及び、維持の方法宜しきに適へるが故に然なりとは言ふ也。

抑も、宣教師派女學校は、外國の政府によりて建られたる者ならず、故に、政治上の變動によりて、其主義又は校長を變ゆるが如きは未曾て有らず。之れ、通常の官立學校に無き所ろのもの也。又、宣教師派女學校は、少數の義捐者によりて維持せらるゝ者ならず、故に少數の寄附者が、其意見を強いて學校の方針を動かさんとするが如きものあらず、之れ少數有志者の義捐金によりて成立てる私立學校に無き所のもの也。左れば、宣教師派女學校には、多數の義捐者と、巨額の義捐金とあり、もとより其額無盡藏なりと云ふにはあらねど、若し教育上に切要の事ありとて新たに募集する時は、千、万の黄金を得ると左程難きにあらず。故に其維持方は至りて容易すく、彼の生徒の月謝金を當にして辛くも生存するがごとき類と同日の比にあらず、是れ私立學校に決して無き所ろのもの也。無論、此女學校は、或る宗派に屬し、其の宗派にて婦人會又は傳道會社を組織し、此會社の手に學校の運命を掛けて、校長及び教師の派遣罷免を掌どらしむとはいへども、抑そも其會社の役員は數千里の大洋の彼方にあり、此方に參りたるは非尋常の决心を立て、殆んど未開國の如く見做されたる東洋の孤島に行くと云ひて出で立ちたる人々なれば、本國人の信用も尋常ならず、概して全權を此輩の手に一任するを常とするが故に、宣教師派女學校の校長及び教員は、實際に於て、本國會社の役員に支配せらるゝと殆んど無しと云ふも尚可なり。左れば、宣教師派女學校を、他の官立學校及び私立學校に較ぶる時は、宛から是れ豊奢氣樂の富豪家を出でて、もつれと貧苦との絕へざる成立六かしき家を見が如き觀

あり。蓋し、宣教師派女學校は、教育家の樂園に建立せられたるものか。寄附金は多くして、寄附者に掣肘せらるゝことなし、學校經濟上維持の責任を他に任せて、教育上の主權を握る。是れ抑そも、何の幸福ぞや。如此き女學校にして若し眞誠の教育行われずと云はゞ、夫は行はれ難き必勢の存するにあらず、只だ行はざる耳。昔し、フレーベルは、政治の爲めに新教育を禁ぜられたることあり、ペスタロッチは、亦貧乏の爲めに新教育に失敗したることあり、たとひ世の大教育者なりとも、若し金錢又は政治上の事にて他より制せらるゝ時は、所志を達し難きこと如此き者ありと言ふと雖ども今の宣教師派女學校の如きは、幸にして、二つ乍ら此の難より免れたるもの也。然るに、此種の女學校にして若し十分の教育を行ふこと能はずと云はゞ、其は行はざるのみ、行はれざるにはあらず。其責多分當路者の上に存すと言はずんばある可らず。

事利斯の如し。然るに、實際に於て宣教師派女學校の教育の必らずしも良結果を奏することあらざる所以のものは何ぞ。吾黨は、或種の人々の如く、一も二もなく宣教師派女學校多年の教育の結果を非難するものにはあらず。其結果には多くの美者あり。若し夫れ、思想の高潔なる、信念の堅固なる、「人」と云へる觀念を比較的多量に發達したる、質朴淡泊にして虛飾なき、率直にして能く言ふ可きを言ふが如き卒業女學才は、尤とも多く何處の女學校より出でたりやと問はんに、無論宣教師派女學校よりすと言はざるを得ず。左れば、宣教師派女學校の教育は、勿論多くの成効を爲したり。其我國の女學界に與へたる功績は千古忘却す可らず、彼の官立學校、及び二種の私立學校の教育成果に優ることありとも劣れること決してあるなし。是れ獨り吾黨の私斷にあらず、尤とも公平なる觀察者は、皆な必らず之と同意見を有すべしと信ず。

故に、吾黨が、宣教師派女學校教育の結果に付きて容喙する時は、之に何の善きこともあらざりしと言ひて難ずるにはあらず。多くの善き事は既に在りたりと雖ども、其善き事の未だ足らざることを認めて之を惜しむの意のみ。故に、其教育を以て失敗せりとは言はず、只だ不十分なりと言ふ。而して其不十分なるものは、他の官立學校及び二種の私立學校の成功に比較して不十分なりと云ふの義にはあらず。宣教師派女學校が能く所有し得べき當然の結果を理想して、而して實際の之

に及ばざるを憾むの意なり。一言するに、樂園の草は、地獄の草に異なり、豐田の穀は瘠田の穀に異なるべきが故に、彼の成立と維持との極めて容易すくして、現今殆んど無類の事利の上に立ちたる宣教師派女學校は、更に多くの善き結果を奏すべき筈ありと言ふのみ。而して、此筈なりと言ふも、敢て彼を責るの念ひにはあらず、只だ彼が力の實切を擧げざるを惜しむの微衷のみ。

然らば、宣教師派女學校が、其當然の結果を奏せざる所以のものは何ぞ、更に切言すれば、彼が比較的の意義に於て、其教育上の失敗を爲したる所以のものは何ぞ、吾黨が細かに注意する所のもの、實に此にあり。

或人は言はんとす。宣教師派女學校々長は、必らずしも前述せる如き利便の上にのみ立つものにあらず。實にも、經濟上最後の責任は、他に在り、此一點は頗ぶる氣樂にして存分に所思を達するの方便あるが如しといへど、其下に屬する諸教員を使役するの點に於て、殆んど校長たるの權力を有せざるとあり。何んとなれば、其諸教員は(無論外國人に付て言ふ、内國人教師の上に於ては、彼は法外の權力を有せり)名義上、校長の下に屬すと雖ども、本國より派遣せられたる地位より言ふときは、校長と同樣同格なる傳道者の身分を有す、左ればたとひ、此教員にして不合當の事ありとも、校長は之を何如にともすると能はず、之に相談するとを得れども、之に命令すると能はず、彼等は皆一個々々本國の會社に隷屬して、直ちに校長に屬するものならず。之を派遣するも、之を免罷するも、皆な本國なる會社の權力の中にあり。此を以て、校長は、初め、同主義の人を撰びて教員とすると能はず、中ごろ、此教員を自己の主義の下に訓練指揮すると能はず、終りに至る迄で、自己信認の主義の爲めに、之を免罷すると能はず。此に於てか、斷えず斷行に躊躇し、始終、調和に姑息し、何事も遠慮して捗々しき教育を施行すると能はず、之れ宣教師派女學校々長の尤とも不得なる地位にして、而して多くの遺憾多分は此一點より發すと。

然れども、吾黨は此の辨解に服するものに非ず。たとひ其職制は如此しと言ふと雖ども、凡そ校長が諸教員の上に於ける宜しく智德を以て立つ可し、職制を以て命令權を施こす可らざる也。故にたとひ、かゝる職制なくして、校長は

全權を握り諸教員を任免するの力を有すとするも、學校內教育の事は、到底教員會議に於て决せずんばある可らず。此時に當りては、議事は職權を以て定むることあらず、皆な智德の中心に向て歸伏するや必せり。左らば、校長にして、智德の中心たることを能はずば、彼に職權ありとも効なし、若し、智德の中心たることを得ば、彼に職權なしとも効あり。効無効は實力によりて决す、職制の上によるにあらざる也。蓋し實力の發揮するは何處に於ても然りといへど、宗教及教育の社界の如く、ことに其顯著なるものはあらず。左れば、教育界の事は、職制名分によりて事の行はるゝの難易を辨護す可らざるもの也。

或人は又言はんとす。日本の人、耶蘇教を嫌ひ、宣教師派女學校に入校せしむるもの少なし。近き三四年の間に於て、特に然りとす。是れ宣教師派女學校教育の目覺しからぬ所以なりと。

然り、日本人中耶蘇教を好まざるもの尙多くあることは、實際なり。左れど、之が爲めに其女子教育を嫌ふと云ひ、特に近き三四年間の女學生減却理由を、主として此一點に歸せんとするは謬りなり。日本人中、耶蘇教を嫌ふ者あれど、其嫌ふ中に於て、女子教育の爲にする分量は、格外に少し。或時は、耶蘇教を好まざるものも、女子教育の一事の爲には、耶蘇教を可なりとするものあり。「男子は耶蘇教を信ず可らず、左れど、女には宜しからん」と論じたるもの極めて多し。故に、宣教師諸君の事業中、耶蘇教を嫌ふの僻見によりて妨たげられたるものありとせば、女子教育の如きは、其妨を受たることの尤とも少なきものにて、或時は、他の事業に於て耶蘇教を嫌ふ所以、轍はち女子教育に於て、耶蘇教を可しとするの所以となりたる奇談もある可し。故に、近く三四年間に於て、宣教師派女學校の生徒の大ひに減却したるは（大抵半數又は三分一となれり）、耶蘇教の故によるにあらず、其教育の故による也。左れば見る可し、女學生醜聞の誤報一と度び大ひに傳はり、父兄の心恐々戰々たる頃ほひに於ても、女學校の教師は基督信徒たるこそ安心なれとて、意外にも、其節、基督教主義の女學校に生徒の增加したることを。故に、三四年間の生徒減却を以て、耶蘇教の故と言ふことなかれ、實は教育上の故なり。もとより

一般に女生徒は減却したり、之れ保守的反動の故によるは勿論なりと雖ども、此中特に宣教師派女學校に於て其減却の度尤とも太しかりしとせば、そは耶蘇教の故にあらずして、教育上の故也。宣教師諸君は、如此き辨解によりて、自から責任を免る可きにあらず。

況んや、教育上の成効は、生徒の多少を以て判す可きにあらず。吾黨は、宣教師派女學校に入門生の多き少しきによりて之を言はず。但だ其教育法に付て言ふのみ。分量の問題にあらず、性質の問題也。人數の上にあらず、人物の上の事にあるなり。

或人は又々言はんとす。宣教師派女學校從來の教育は、西洋に僻して、日本學に迂なりき。故に近年は、大ひに改良し、學科を別半して、和洋を程好く折衷せり。數年前の失策を以て、今日を責む可らず。今日の宣教師派女學校は、大ひに改良したるにあらずや、と。

然り、之れ祝すべきとなり。吾黨は屢ば忠言を呈したるとあり、而して今や多少聽用する所ろとなりしを喜こぶ。左れど、宣教師派女學校を如此く改良し、和洋折衷の普通女學校と爲したるが如きは、未だ其天職を盡したるものにあらず。吾黨は去年秋以來宣言せり、宣教師派女學校今や又々反動し、此度は寧しろ日本風に僻せんとす、もし如此くして普通尋常の日本女學校と同樣とならば、宣教師派女學校の特色何處にあるやと。吾黨は、此言を擧て、今も尚ほ右の辨解者に呈する所ろあらんとす。宣教師派女學校も亦た時勢の風潮に迷はされ、才子の立策に雷同して、俗世の注文に應ぜんとするか。かくて、木にもあらず、草にもあらぬ、曖昧の調和に安んじて、其天受の特色を失なはんとするは、最大恨事に非ずや。彼は、風潮の上に超然として立たざる可らず、亦立ち得べき資力を有せずや。何を苦しみて、官立學校及び私立學校の顰に倣はんとはなす。

吾黨は在り觸れたる辨解を謹聽せり、而して、一々思ふ所ろを開陳せり。吾黨は門外に居て、無責任の評を投掛くるものにあらず。宣教師派女學校の多くの美所長所を識認し、又た之に固有せる幾多の不利を承はり知り、淺からぬ同情を寄せて、而して、其の教育結果の不成功なる所以を細思潛考せり。吾黨は實に、彼女學校熱愛の友として、其の成功策を案じた

り。玆に一策を献ぜんとするは、實に女學を思ふと切、彼女學校の爲に憂ふると亦切なるが故のみ。

左れば、吾黨は、宣敎師派女學校に附屬せる多くの短所を容認し、必らずしも冷酷に之を責めず。校内に於て、受洗信徒の多く出んことを熱望するの誤見、並びに、入學生の數の多からんことを切望するの陋見は、其本國に報告するの事に關係す。元來如此き事ある可らずと云ふは、人情を知らざるもの也。吾黨は人に神仙的の完きを求めて、一々人情の弱點を責めざる可し。」又、宣敎師派女學校に氣骨ある日本人、不羈獨立的の日本人が、同勞すること少き所以、たとひ同勞すとも喜んで愉快に働らかざる所以の情理を辨知すといへども、之を以て宣敎師諸君の短所にのみ歸することなし、又其元因の俄かに除き難きものあることを知るが故に、强ち此の至難の點に向て策を進むることをせざる可し。

吾黨は、其短所を容認し、其弱點を勘辨し、而して能く、其長所美所を大ひに發達せしめ、以て、外は彼地篤志者の殊勝なる慈善心を大ひに顯揚し、內は、海波万里を横ぎりて此他邦に渡來し熱心餘りありて手及ばざる宣敎師諸君が功績を大ひに發揮し、遂に日本女學の爲めに一大利益を收めんと欲し、敢て左の一策を献ず。

雜錄

今昔ものがたり

○名と人と

秋玉庵稿

名は、實の賓といへば。其始め名を命する時に方りては。隨分名は、選ばねばならぬ、ものにてはあれど。さりとて、又一方よりいへば。假令ば、英雄といふ君に、必しも英雄ならぬもあり。操てふ細君の、不義を爲すとも、多き中にはあるべければ。善き名付けたりとて、必しも其人の、尊く聞ゆるにてもなし。兎に角善き人は、可笑き名にても能く聞こへ。左もなき人は、いかほど、儼めしき名付けたりとて。其人の品位、打上りて見ゆとも覺ぬものなれば。名は何にても、元の儘にてありぬべし。近來殊さらに今様めかして、何吉何藏など稱へ來りしを、名乘めきたる、六か敷名に更めて、したり顔なる人多きは、片腹痛し。中には、有觸きたる名の、文字のみを改めて。稍品位上れ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

りと、思へるなどは、心の底も、見へ透たる業なりかし。むかし備前少將池田光政は、生涯新太郎とのみ稱へられしかば。諸大名達此事は如何事やらん。御改めありてはと物語られしに。光政其事は何ともいはず。唯近頃江戶の町を通行いたし候に。鍛冶に何々の守、又は鏡磨に、何々の大掾など申名見へ候へ共。別段有難しとも覺へ申さずと、答へられしよし。今の人之れを思へば、必思半に過ぐるものあらむ。

○其角の機智

元祿の頃江戶に、大野秀和といへる俳諧師あり。素は何某侯に仕へて、豪雄の聞へありし武夫なりけるが。浪人しても昔しを忘れず、惣髮にして、兩刀を帶し居れり。此者其角が。或方にて、己れが事を。譏り笑へると聞て、大に憤り居けるが。折から兩國橋の上にて、不圖其角に行逢ひたり。秀和大に喜び、聲掛けているやう。いかに其角、汝しかく〱の事申せしと、定て心に覺へあらむ。あはれ奇怪なり、尋常に勝負せよと。刀の柄に手を掛けて、詰め寄たり。其角答へて、左る事申したるに相違なし。されば汝遺恨に思ふは尤なり。いで相手に罷ならん。然ながら、只今支度いたす間、暫く待れよと。裾引上げて、雪駄を腰に挾み。いざ御參なれといひ捨て、跡をも見ずして駈出せり。餘りの事に秀和は興覺め、永追せずして、止ぬとなむ。此外其角には、種々の奇行多かりしかど、今思ひ出ず。

○ものには、餘韻あり度事

凡ものに、余韻なきは、興薄し。詩韻繪畫などは勿論、婦人の言行などは。殊に餘韻を存するやう、せられ度ものなり。或人は彼淸少納言が、香爐峯の雪はとの　皇后の御詞に對し直に起ちて、簾を揭げたるさへ、いかゞならんといふ、夫よりは、あれ揭げてよと。ひそやかに、女の童などに、命じたる方、溫和しくて、宜しからむなど評するもあり。夫は兎に角、ものは、十が十まで、形狀、言詞に顯はしたらむよりは。其如何程をか、殘し置きて、他は人の想像に任せたる方、興味あるものぞかし。儂此ほど上野の、美術展覽會を、見に行けるが。其中にいろ〱題を設けて、圖を畫けるがあり。何れ劣らぬ名手の、筆に成れるが中にも。意匠の巧なるには、繪はさほどにあらずとも、幾度か顧みて、其處を去り兼ぬる心地すなり。其内一つ記臆に存するは、砧を聞くといふ題にて、

砧を擣つ所は示さず、單に賤が家の側面の、小やかなる窓の邊、種々の草花茂りて、秋いと深き躰を寫し。夫れに少し離れたる、此方の、疎らなる松林の下に。月を背後にして、石に腰打かけたる行脚僧の、彼の賤が家の方に向ひて、さも聞惚れたる躰に、心耳を澄し居る狀を畫きたるがありしを。他の同じ題にて、現はに衣を擣つ所を、畫きたるよりも。興味深く覺へたりしが、是や繪の巧拙を解せぬ儂も餘韻の嫋々たるを、心に感ぜし爲なるべし。或人の咄しに、昔し聞時鳥といふ題にて、兩國の橋の上にて、時鳥を聞侍りてとはし書きして。「兩國の、橋にて聞くや、時鳥と」なしたるものありしとぞ、かくいひ果ては、眞に豆腐を嚙むよりも味なくして、二度と口吟む心は出ぬものなれば。是等に限らず、何事も、此心得あることそ專要ならむ。

○從者と秀詠

晉子其角師翁芭蕉と月を賞せむとて元祿丁卯の年、秋の半。隅田川に舟を浮べ。清光に棹して、各句を案じけるに。同遊の一人、仙花といへる者の從者、半四郎といへるが、艫の方にありて、心に浮みしまゝの一詠に「名月は汐に流るゝ小舟かな」といひしかば。芭蕉を始め、諸人且感じ、且愧ぢて、其夜は句作を止めたりといへり。之れと似たる話しは、昔し俊綱朝臣の館にて、水上月といへる題出たりし時。田舍より使に來り居し青侍、一首仕らんとて「水や空、空や水とも、見へわかず。かよひてすめる、秋の夜の月。」と聞へしとぞ。似たる話しは、尙ほありぬべし、是れは俳家奇人談に載する所。

○法文は、簡易、明晰を主とすべし

本多作左衞門重次、三河に在りし時。壁書の條々を定め、百姓共に示しても、一向に用ひざれば、如何はせむと、諸士の相議しけるを聞き。重次は、下情に通じたる人なれは、之に對していへるやう。土民は、いろはさへ、ろく／＼知ぬもの多きに。其處へ、堅き文言にて、六か敷文字書き、高札を建たりとて。一向に讀めねば、守らぬも道理なり。夫よりは、仕やうこそあれとて。假字にて、いと容易に、何々の事、と書き。右をそむくものをば、作左がしかる。と書加へしより、國中皆々掟を守りしといふ。今の世は、さる文盲の、者のみにては、なけれ共。萬民の守るへき法律、又は國民として知るへき法令を

專門の學科を修めしものならでは、解し難きやうなる文章になし。銘々に、注解を異にするが如きとあらむは。願はしからぬとと思ふまゝに、極端なる、昔語りをも、斯くは記しつ。

○京と江戸の衣裳競べ

延寶の頃、一世の風潮、奢侈に傾き居しが。其頃京都に、難波や十左衞門が女房、江戸に、石川六兵衞が女房など、別て奢侈を競ひ。態々衣裳競べに、江戸より京都へ上りけるが。其時難波屋の女房は、聞くと等しく。緋綸子に、洛中の圖を繍はせ。江戸の石川の女房が、立出て。東山邊を、徊徘するに、出合ひけるが。石川の女房は、黒羽二重に、南天の染をぞ着たりければ。見合する迄もなく、京の方結構なるにぞ何の衣裳競べかはとて。例の京童の、口善惡なく、いひ罵りつ。能く〱見れば、南天の實は、珊瑚珠を砕きて。ひしと縫つけさせたるものにて。ありしかば、難波屋の負けに、なりけるとぞいひ傳ふ。今の西京と、東京とを比較せば。概しての衣裳は、西京の方勝り。織工、染工、刺繍なども、東京と、競ぶる迄もなく巧なれ共。富と、貴族とは、流石大都會の東京に集められたれば。群を踰へての衣裳の好みは。東京に數歩讓るなるべし。但一般を平均したる結果と、又其氣風をいへば、依然西京は、今も着倒たるに背かず。

○律義者と武邊

律義なるものならでは、武邊はせぬものなりと、昔の人も云傳へたり。加藤清正剛の者を欲しく思ひ、生涯其目利に、心を盡し。人相まで稽古したれ共、其術を得ず。只律義なるものに、武邊者多しと云しとなり。又加藤嘉明もいひしは、氣先の、健氣なる者は、人の目を驚かすほどの、働きを爲すといへども。踏詰めたる武功は、律義なるものにあり。譬喩ば、亂軍の中にありて、主將の威衰へ。人々二心を懷く中に。獨り義を守りて、心替りなき強みは、律義なる者ならではなし。諂ひものには、假令万一一旦の武邊ありとも、曾て頼みにならず。かゝるものは、場合に依りては、主を殺しても、身の爲を計るなり。僞と、貪は、類は替れども、其落着は同じ。されば律義なるものならでは、眞の武功は、遂げ難しといひたるよし。何れも、經驗に富める、武人の談記臆に存すべき、價値ありといふべし。之れを今の、信仰強きものは、必眞勇あり。拙き信は、巧なる僞に勝るなどいへるの、事

實に照し合して考ふれば、甚味深きを覺ゆ、

沙翁曲中の淑女

城東生譯

シエクスピア翁は万能の詩人なり、或は云ふ底しらずの湖なりと、或は云ふ沒理想家なりと、夫は吾れ等の知る所に非るも兎に角に其筆は深く人情の奥底に達す、故に見る人各々其の感を異にす、前に掲げしものは戀人としての觀察、今掲ぐるものは單に淑女としての觀察なり共に相待つて翁が寫せし婦人の一端を見るを得んか。

沙翁が淑女を寫すに妙を得たりしとは隱れもなき事なり、其の淑德と美麗なるとは永遠不滅にして今日に至るまで婦女の龜鑑たるべし。翁以來風壇に淑女を寫せしもの少しとせず然れども彼等皆世人の記憶より逸し去りつ、只翁のもの丶みは猶歷然として世人の腦中に存し到底奪ひ去る能はざるなり。

翁の淑女を寫すや啻に自然が現世の女性に與へし美を以て足れりとせず、遠く想を他界に馳せて「ミユース」の神に接し神來の美を捕へ來つて爰に其の女性に與へしものと云ふべき、恰も花目鏡の如く一轉は一轉より美しく愈々究めて愈々麗しきを見るべし、只夫れ斯くの如くなれば吾が此處に伺ひ得べきは只其一側の觀察のみ。

其の誠實、天成、純潔なるを知らんと欲せば「テンペスト」の曲に於けるミランタを見よ、フエルヂナントは彼を見て「われ多くの德高き婦人を見き、然れど未だ君の如く完き人を見ず天下恐くは君に匹するの淑女あらじ」とまで賞嘆せり。淑德と權威と智識とを平等に備へ尚且つ處女のあどけなき風を失はざるものはベルモントのポルシアなり、宜なり彼れ其友より限りなき歎美の詞を博せり曰く

"Why, if two gods should play some heavenly match,
And on the wager lay two earthly women,
And Portia one, there must be something else
Pawned with the other; for the poor rude world
Hath not her fellow."

—Merchant of Vanice, III, 5.

「此の荒れ果てたる世にはポルシアと並び得るものなし」と殊にわれ等の注意すべきは彼れの見識と道義とに在り、是れ「マーチヤント、オブ、ブエニス」の曲をして殆んど彼れの一人舞臺たらしめし所以なり。博士ダーウ井ンの進化の理を實行し、英雄たる夫を希望して終に人種の改良に結果せしめたるものはヘレナなり、其の希望の高きを見んと欲せば「オールイス、ウエル」の曲第一幕第一齣を見よ、彼は失望せず落膽せず婦人にふさはしからぬ程の勇氣を以て其の希望を遂げぬ、翁が此の曲に於て示さんと欲せしものは眞正の平民主義にしてヘレナの人品に依りて眞正なる人物の價値と功績とは人爲の族籍に由るものに非るを說けり、曰く

"Good alone
Is good; without a name, vileness is so;
* * * * *
Honours best thrive
When rather from our acts we them derive
Than our fore-goers."

—All's Well, II, 3.

「善は善なるが故に善なり、惡も然り名譽はわれ等の力に依りて得てこそ始めて値あるものなり」と。「メジユアー、フオア、メジユアー」の曲に於けるイサベラに至りては、其の道念と見識の一層に高きを見る「彼れは默するも能く人を動かす、一旦口を開かば之に服さゞるものなし」と云へり、其の愛の爲めに身を犠牲となすは恐く及ぶものなからん、兄なる人に對する愛には己が命を惜まざりき、彼れが高潔なる言は讀者をして覺へず襟を正して淑女の貞潔を慕はしむるものあり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

刺激的の滑稽を有して惡意あり氣なるはビートリスなり、敏捷にして人を惑はしむるが如く見ゆるはロサリントなり、前者は多くの諧謔を弄せり、而して其の惡意あるが如く見ゆるは只皮相のみ其極意に至りては全く之に反するものあり、若し彼が如何に従弟なるヒローに對するの献身的なるかを見ば其の眞意明けし。ビートリスとロサリンドとは大ひに異る處あるも又甚だ似たる處を有す、例へばビートリスがヒローを愛すると、ロサリンドに對する其從弟セリアの友愛との如し共に是れ淑女の貴ぶべき性質よりするものと云ふべし。

翁の寫せし婦人百以上に達し、各々個々の特質を顯せども未だ嘗て愚鈍なるものを見し事なし、時に惡意あるもの或は無學なるものありと雖猶其の境遇に應じて機智を有せしものにして其内に愚なる處を見ず、翁は婦人を以て賤むべきものとなさず却て極めて多くの價値を之に認けり、ビートリス、ロサリントの如きナブアールの宮庭に於ける皇女と侍女との如き、其の機智（ウヰット）迸かに敏く其性甚だ麗しく闇夜の星の如く輝き之に竝ぶ人をして轉た其の足らざるを感ぜしむるなり。彼の辟物とも云ふべきケートの如きも其の荒々しき禦し難き天性と共に此の麗しき性を備へたり、而して彼れ後に己が性質を左右し得る人に遇ひぬ、此れペトルシオにしてケートも遂に其の見識と偉大なる意志とに服し「わが誇りし鎗は稿の如しわが力は弱し」と云ふに至りぬ。

翁の婦人に對する見解に付以て驚くべきは其智識に於て大ひに先見ある處なり、翁の當時に於て寫せし婦人の法律家或は女醫の如き皆實に近代に至りて實行さるるに至りぬ、然らば翁の人物は又過去の時代を代表するものに非ずして近代を達觀せる預言者なるか、夫れ昨日の理想は今日現實のものとなれり。又翁は道德的及び智識的の美を以て肉躰的の美の上位に置けり左らば「ソンチツト」に

> "Oh, how much more doth beauty beauteous seem
> By that sweet ornament which truth doth giva."

「眞理の飾りは如何ばかり彼の美を增さしむるぞ」と云ひ又

> "Kindness in woman, not their beauteous looks,
> Shall win my love."
>
> —Taming of the Shrew. IV, 2.

「美貌を愛するに非ず只婦人の親情はわが戀となれり」と云ひ或は

> "Virtue is beauty; but the beauteous evil
> Are empty trunks, o'erflour ished by the devil."
>
> —Twelfth Night, III, 4.

「德は美なり外面美しきのは惡魔が飾りたる美しき箱なり」と而して翁は又斯くの如きの道德上の美は他の性質と共に面相に顯るとせり、ペリクルス未だ知らざりし娘を見て言ふ、「汝の心には僞りなし汝の相は正直なり汝は眞實を以て充されし宮殿の如く見ゆ」と云ひ、オセロに猜疑を起したる後デステモナを見て

> "If she be false, O. then heaven mocks itself!
> I'll not believe it."
>
> —Othello, III, 3.

「彼れ僞れるか然らば天は自ら欺くなり、われは信せず」と云ひ、又時には直接に筆を下して「彼れの眼彼れの頬彼れの唇、否な彼れの足さへも其心を語る」と記せし條下あり其他率れ斯くの如し。

讀者注意せよ、翁は如何に屢々力を極めて婦人の尤も貴むべき性質即ち其の純潔と貞節とを曲中に語りしかを注意せよ、夫の神聖（ザバイン）なるテスデモナは云ふも更なり、女王ヘルミオンは迫害に遇ひ死を以て脅迫せられしも。

> For life, I prize it
> "As I weigh grief, which I would spare; for honour,
> 'Tis a derivative from me to mine,
> And only that I stand for,"
>
> —Winter's Tale, III, 2.

「われ、わが貞節の爲めには死だも恐れすと」絶叫し、彼の剛毅なるイサベルは

> "Th impression of keen whips I'd wear as rubies,
> And strip myself to death, as to a bed
> That longing I've been sick for ere I'd yield
> My body up to shame."
>
> —Meas, for Meas, II, 4.

「われ身を恥かしめんよりは喜んで死に就くべし」と奮ひ立ち、彼の可憐にして不幸なるマリナは暴人の手に落ちし時號呼して

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

"O. that the good gods
Would set me free from the unhallowed place
Though they did change me to the meanest bird
That flies i' the purer air."

—Pericles, IV, 6.

「神々よわれを助け玉へたとへわれは空飛ぶ鳥となるとも」と訴へぬ、而して彼れは終に此の危難を足臺として後の幸を得ぬ。斯くの如きは今の淑女に深く鑿むべき處ならずや。

前條擧げたるものは凡て婦人の貴ふ可き處たり、然れども其欠點に至りては翁亦之を寫して憚からず、素より其の决點たるや愛情の深きよりして落る底のものなれば又恕すべき處あるが如し、アンゼロとイサベルとの對談に婦女の决斷に乏きを論じ、リニークリースに婦人の過失の多くは男性より來るを訴ふるの類たり。わが愛に本論を草するは沙翁が淑女の如何を略述せんとに在れば、彼の大立者たるマクベス夫人、女王マーガレット等の如きは畧きぬ。若し夫れ淑女の貴きを賞して

She is mine own,
"And I as rich in having such a jewel,
As twenty seas, if all their sand were pearls,
The water, nectar, and the rock pure gold"

—Two Gent. Ver, II, 4.

と云ひ、其の柔和なるを擧げて

Her voice was ever soft;
Gentle and low. an excellent thing in woman."

—King Lear, V, 3.

と云ひ、其の過失を捕へて、

"You are pictures out of doors,
Bell in your parlors, wildcats in your kitchens,
Saints in your injuries, devils being offended."

と云ふが如き片殊に至りては其多き幾何なるを知らず、要するに翁が理想の淑女は天使と異る只一歩のみにして夫の純潔と至善との光輪は絶へず其の周圍に在りて彼をして不滅のものたらしむ、世の娘君方に告げまいらせん、君等若し翁の淑女を摸範とせば恐くは赤心ある眞實の淑女たるを得ん。

論説

朝鮮に於て爲すべき日本婦人の事業

在仁川　青山好恵

婦人の感化力の大なるは今更之れを云ふを要せず而して余は朝鮮人を感化するに於て、朝鮮國に、朝鮮人民の間に、「日本」なる感念を吹き込み、「日本」の光りを赫變たらしめ、「無形の日本を形作るに於て、特に日本婦人の要用を認むるものなり、而して此國に於て働く事の、日本婦人の眞器量を世界に知らしむるに於て、亦日本の婦人の利益なりと信ずるものなり、故に余は敢て朝鮮に於て爲すべき日本婦人の事業を列記し、以て愛する本國の姉妹諸君の參考に資せんとす。

（一）日本語女學校　今日に於て王妃殿下が萬機を親裁し國王殿下は啻に虚位を擁し玉ふに依りて大なる的確の實例を示せるが如く朝鮮に於ては婦人は男子より尊敬せられ亦從つて非常の勢力を有し一家内の王にして其夫たる者も唯に其妻の意の儘に行動せざる可らず要するに此れ朝鮮の男子は多く柔弱懶惰にして婦人の働きに依て活計するもの多きが故に自然に

實力の婦人に歸せしものならん大にして云はば朝鮮男子の思想は婦人の思想の影なり故に朝鮮人を改良する者朝鮮の開化を進めんとする者亦必ず其婦人の改良より初めざる可らず吾輩が日本なる感念を此國人に吹き込むに於ては或は此國を改良進歩せしむるに於て、亦其婦人の改良より初めざる可らず其婦人を改良するの第一策日本語及日本學に技藝を教授する女學校を開くに在り、今日に於ても男子を教授する日本語學校あり、素と言語の成立及び其起源相類し、相互いに風俗風慣相似れる所より彼れ等の上達も亦速かに開校以來一年餘の今日彼れ等の學生は既に巧みに日本語を話し日本文を解し、小學讀本位ひは自由に講釋し得るに至れり、左れば女子を教育する日本語學校を開くも亦男子を教育すると同樣の結果を得べく而して日本語學校にて日本學術技藝を教授せられたる女學生が「日本」を尊び日本人を敬し日本の事物を好愛する事、日本の文明を輸入したしと感念する事等も凡て、今日に於て男子を教育する日本語學校の生徒等が「日本」を尊び日本人を敬し日本の事物を愛し日本の文明を輸入したしと考ふると同一の美結果を得るや必せり此時に於ては朝鮮の社會の改良進歩は得て望むを得べし而して日本の利益を此國に得んも亦容易なる事なるべし其設立の方法及生徒募集の方法、教授の方法等は余は別に專ら之れを記述せんと欲す。

(二)醫業　朝鮮にては學校教師を兼ねたる藥店の主人より外は醫師と稱するものなく朝鮮人の病める時には此の藥店主人の診察を受け其の草根木皮より作りたる藥を服す故に死るもの多きも彼れ等は天命となして觀念するなり此くの如く男子は不完全ながらも醫師の診察を受くるも中以上の朝鮮婦人は己れの夫の外男子に接近するを得ず男子も亦内房(婦人の居室を云ふ)に立入るを得ず故に女醫なき此國に於ては婦人病める時には醫師の診察を受る能はず只に其の亭主の手盛りの藥を服するのみなるを以て重病を患へば必ず死するものと決せられ居るなり憐むべき次第と云ふべし近時に至り洋風の醫術此國に知られ朝鮮人の多くは日本醫師西洋醫師の診察を受け其の藥を服するが故に近二三年に於ては日本或は西洋醫師ある土地にては大に死する韓人の數を減じたるも尚ほ婦人は病めば必ず死するものと觀念せざる可らざる憐れなる運命を有せるなり彼れ等婦人及其の家族も日本若くは西洋醫師の診察

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を得んと望むも悲ひ哉日本人と西洋人とを問はず女醫なきが故に其望みを達する能はずして空しく死するなり故に今日に於て日本の女醫師か此國に來り醫術を開業するに於ては朝鮮婦人の生命は毎年數千百も拾はれん博愛仁慈の業寧ろ之れに過ぐるものあらず而して此れ亦此國を改良するに於て「日本」光輝を此の暗黒王國に輝かすに尤も効あるものなり。

（三）産婆　出産の一事は朝鮮婦人に取ては尤も艱難なる事の一なり何となれば朝鮮には日本の産婆の如き出産の世話をなす婦人なく而して男子は己れの夫と雖ども出産の場所に近くを得ざる習慣なれば産婦自ら出産前後萬般の事を自らせざる可らざればなり其の苦痛察するに餘りあり故に朝鮮にては出産當時の拙きが爲に産兒の不具者となり若くは死するもの殆んど十の五六而して其産兒の死し若くは不具者となる時には世間は以て前世の罪業の致す所となし以て其の出産の術の如何に依りて然るを問はず朝鮮婦人の憐なる此の如し左れば日本婦人の産婆を業とせらるゝ方が此國にて開業せらるゝ曉には朝鮮婦人及其の産兒の依りて生命を拾ふもの年々數千百に上るべし博愛仁慈の業醫業と相幷びて之れに過ぐるものなからん此れ蓋し只に博愛の業として稱賛すべきのみならず亦「日本」の光輝を此の國に輝かすに力あるものなり。

以上の三事は蓋し日本婦人が此國に爲すべき事業の大なるものならん先づ日本語を學ばしめ日本學を教授すれば「日本」なる感念を婦人に吹き込む所以なり醫業産婆業等の朝鮮婦人の將さに渇望し居る所のものに依りて仁惠を施すは蓋し朝鮮婦人をして日本人の如何に博愛厚誼の人なるかを知らしむるなり而して婦人は男子を感化するに最も力ある者なると、特に朝鮮婦人は男子よりも家庭内に勢力ある事を見ば日本婦人以上の三事は唯に其の功力婦人をして「日本」を尊ばしむる樣になすのみに止まらざるとし而して以上の三事は尤も日本婦人に好適の事業にして而して日本婦人に非ざれば爲し能はざる事業なり何となれば朝鮮婦人は其性質の相類せる所より日本の婦人を愛好し日本婦人に親しむの風あるも他の西洋及支那婦人とは相見るを好まざるが如き風あるが故なり。

日本婦人に最も好適なる最も得意なる仁慈の三事業は今や日本婦人を待てり西洋の幾多女傑が爲したる偉事業を慕はるゝ姉妹諸君、己れの器量を試むに處なき姉妹諸君、一生を仁慈

博愛の事業に委ねんとせらるゝ姉妹諸君、何ぞ奮ふて海を渡り此の未開の土地に働かざる、卿等に最も好適なる最も得意なる、最とも効を修め易すき事業は卿等を俟てり、余の拙き筆詳細に余の意思を記述する能はず、此れ等及び其他の一事一物に付きて愛姉妹の問ひに答ふる事は、余の最も愉快とする所なり。

家政

○家兎の飼養法

畜勸子

兎の繁殖は甚だ盛なるものにして、妊娠後三十一日目に分娩す、分娩后二週間を經て又交尾せしむ、斯すれば一ヶ年八回分娩す、一回十二頭位產るゝとあるも之を六頭に見倣すも、尚ほ一年に四拾八頭の兒兎を得べく、又兒兎は六ヶ月を經れば交尾す。若し管理法宜しくば、一雄二雌の種兎より繁殖する兒兎の數は實に驚くべき程にして、分娩の頭數三分の一に見積るも、一ヶ年間に三四百頭の兎を得るとは寔に容易なりとす、且つ半年も蕃殖の后は、一週間一二頭位を屠りて、食卓に美味を上すと甚だ易し。

兎舍

兎舍は茶櫃の古物を買入、蓋の所を横にして、一寸明位の格子に打付て、其上の板を一枚剝がし、兎の出入又は食物敷藁等の出入口にすべし。

又兎舍は椽側、上り段の下、床の下等を三尺斗に仕切て、地面より少し高く板を敷き列べて飼養するも亦可なり。

飼料

飼料は臺所の敗物にして、野菜物の皮、葉、根等なれば何種にても大概食せざるものなし。澤山飼養するには、市中なれば燒芋屋の敗物、豆腐糟、麥のフスマ、などにて飼養すれば、一頭の飼料は平均一日五毛位にて足るべし、若し田舍にて飼養せんには、野邊の雜艸木葉は大概は兎の食物にして、飼料に費なかるべし、冬期もし飼料に缺乏を告ぐれば、殼麥の惡きものを一夜水に浸して后篩に移し、水を切りて土地の上に置き、蓋にて二晝夜程密閉すれば、麥に二分斗の芽萠出すべし、之を與ふれば頗る生長宜し。

○家內重寶錄

ふみ子

○金柑水を製する法　金柑の熟したるを擇み取り。切斷して

二片となし、液汁を溶り出し。該液六合、淡水三合、砂糖五斤を、混和し、火に上せて、沸騰せしむる事、大約廿分間。而して後放冷して、濾過し、壜中に盛りて、貯ふべし。夏日水に和し、飲料に供して、最も甘美なり。

○飯の炊ぎやうは誰も知りたる事なれど、唯水加減の點は、器の大小、形狀と、米の多少に依りて、相違するものなれば。簡便の一法を示さんに、鍋釜の大小、米の多寡に拘らず、米を磨ぎあげて、水加減を爲す時。其器を傾け、一方の米面を、水面に顯はし、米面と、水面と、等分になるを度とし、炊ぐ時は誤なかるべし。是を譬へて、水半月、米半月といふとぞ、至極簡便なる法なり。

○茶飯　喜撰、山吹位の茶を、程能く煎じ。其液にて炊ぐべし。水加減は、通常より、少々増すべし

○紫蘇飯　紫蘇の葉を、鹽にて揉み、液を搾りて、細く刻みおき。飯の、煮き上りて、薪を除く節、之れを混ぜ、暫くして、燒鹽を少し入れ、鹽梅すべし。

○粟飯　粟壹升に、水貳升位の比例にて、ゆで。軟らぎたれば、直ちに液を去り。粟壹升に、粳米三合の比例にて、粳米を交ぜ。更に通常の水加減にて炊ぐなり。かけ液を用ゐるもよし。又砂糖、大豆の粉を掛くるもよし。

○鹽の汚物を去る　日本製の鹽は、製法粗惡にして、色も亦純潔ならず。隨て味も宜しからざるなり。之れを精製するには。鹽壹升に、熱湯二升を加へ、攪き交ぜて、能く溶かし。凡一時間を經て後ち、布又は紙にて漉し。器底に沈澱せる、泥土及汚物を去り、其液を土鍋にて煮、水氣を蒸發せしむべし。去れば美白なる結晶、器底に殘るなり、之を胡麻鹽又は煮物などに用うれば、味佳くして。病者などには、殊に宜し。

○馬鈴薯を貯ふるには、皮を剝ぎて水に浸し、毎日能く攪き交ぜて、水を換へ、いもの面にぬる〳〵としたものゝたまらぬやうに、すればいつまでももつと請合なり。

○牛肉又は、其他の獸肉鳥肉などを煮るに、とろ火にて、三時間乃至四時間ほど、煮れば、如何なる硬き肉にても、軟かになるなり。而して、肉を食ふを目的とするものは。最初湯を沸騰らせおき、其中に入れ。五分間ほどは、強き火にて煮るべし。汁を吸ふを主とするものは、最初よりとろ火になすを能しとす。其は初よりとろ火に爲す時は、肉中に含める滋

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

養分、漸次に汁中へ流れ出るを以て、ソースを取る爲には可なれ共、肉を食ふなれば、最初暫くは火を強くし、先づ肉の外面に薄皮の如きものを造らせ、而して滋養分の流出を防がせねばならぬ故なり。

○牛の舌を軟らかに煮るには。之れを用うる前、終夜水に浸し、之れを、二時半乃至三時間ほど煮るべし。而して盤に盛る前に、其皮を剝ぎ去るなり。

○魚肉を骨まで柔らかに煮るには。山樝子の實を、二三顆入れて煮れば、骨の軟らかになると妙なり、殊に著しきは、鮒鰌なり。山樝子は、藥舖にあり。

又昆布卷の鮒は、素燒する時、鰻へ、胡麻の油を、箸に付けて、少し宛さしてよし。

又鯊は、炙りて二三日風に曝し、能く燥して、煮ればよし。

○串海鼠を軟らかに煮るには、藁灰の熱き內へ、暫く入れおけば、軟らかになりて、串より能く抜けるなり。

○牛乳の腐敗を防ぐには、一旦煮たて、涼しき處に置くなどは、誰もなす事なるが、夫よりも能きは、炭酸曹達、又は炭酸マグ子シアを少許入れ置くなり。

○醬油の黴を防ぐには、芥子を麻布に包み、其器に入れおけば、黴る事なし。又鹽を色の黑くなるまで煮て、醬油に和ぜおくもよし。分量は、醬油壹樽に、五勺ほどなり。

○しやうじんのだしは。干瓢、昆布、ほしたで、餅米袋入、干蕪菁、干大根の內、とり合せてよし。

○干したる椎茸をなまになすには、なるべく裏の白きを撰み、砂糖水に浸せばなまになるなり。

○牛乳の甘味を脫さぬには、食鹽を少し加へ置けば、數日間甘味脫する患なし。邊鄙にて、日々求め難き人には、便利なる法なり。

○衣服に、油の付きたるを脫く妙法は大根をおろして磨り。其絞り汁にて洗ひ終りて後。熱湯を以て濯げば、如何ほどの油たりとも、落ざるとなしといふ。又澁の付たるは、白砂糖を揉みつけて、洗ふべし。又た鐵醬の付たるは、醋にて洗ふべし。然れば、衣服損せずして落るなり、漆の付たるは、直に種子油を浸し、揉みとすりて絞り去り、漆氣の脫したる後、筆灰にて吸ひ除くべし。煙草の、脂の付たるには、能く取り除き、筆灰にて吸ひ取り、石鹸水にて洗ふべし。但し染

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

め地には、烏梅汁を加ふ。

茶會話

○會話上の心得

人と會話いたし升る時。誰しも、自分の思ふ事を。一番澤山いひ度もので御坐り升。甚しきは、人の談話なし居る間を、待兼て。口を出す人もあり升が。是は甚交際法の宜しきを、得たものでは御坐り升ぬ。會話の節、人を樂しくするの秘訣は、人をして、思ふ事を、遺憾なくいはしむるにあり升。而して深切に之れを聞き。自分の事にて、餘り先方に關係なき事はいはぬやうにし。力めて先方の話しに、同情を持つやうにすれば、大概の人は、斯の如き人と、談話することを、好むやうになり升。

○竈に近き壁

竈に近き壁は、三年毎に、上塗するが宜しい。壁新しければ、燈火を點じても光よし。又煤は、度々拂ひませぬと、火を誤る虞があり升。

○老人の居間

老人の居間は、圍の作り所を撰ばねばなり升ぬ。居間より遠きは、老人にとりては、何よりの不便です。椽傳などにて、通行のたより、能きが肝要であり升。

○天井の板

天井の板に、光澤を付くるには、もみ糠を、袋に入れて、磨くが宜しい。

○傘を乾す心得

傘を雨中にさして後干すには、轆轤に物をかひ、しぼまざるやうにして、頂をくゝり。物に寄せ掛けて、干すが宜しい。はじきがぬ一ぱいに開き、烈しき日に乾せば、紙質が弱り升。

○紙と筆

柔らかき紙には、毛の強き筆を用ひ。強き紙には、柔らかき筆を用ひて、強柔相合はしむれば、丁度能き加減となり升。

○湯に浴して逆上せぬ法

湯に入りて逆上せぬには。顔を一番仕舞に洗ふやうにするか。但しは、顔だけ、水で洗ふです。兎に角最初に顔を湯にて濕せば、逆上せ易いです。

○坂を登る口傳

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

坂を登るには、半途にて立止まり。跡を顧み、又空を見れば、息入るなり。坂長ければ、度々しかすべし。山本勘助の書にも。坂を登らば、半途にて、顧みよとありといへり。又すべり道には、壹寸足とて、細かに歩めば、辷る事なし。其は細かに歩む時は、足の一方に、必力あり。大足に歩めば、双方に力なき故、顛倒し易きためなりといふ。

家庭の養鶏（五）

育雛法

（一）鶏箱　の中を板にて七分に三分位の仕切りを造り、其下に雛の通過する小さき穴を穿ち置き。其仕切の廣き方へは砂を敷き小米などを散布して、雛の運動場となし、其狹き方へは母鶏を入れ置くべし、雛は運動場に出で自由に遊び、母鶏の足にて蹴らるゝ等の憂なく甚だ安全なり

（二）雛の食物　雛は脱殼后一二日間は食を喰はず、母鶏の腹の下にて眠り居りて二日目の午后より少々の食を喰ふものなり、此時より二三日間は麥のフスマ、又は小米、引割等を少々の水を加へて暫時煑詰、半熟のころ玉子一個を投入して攪拌し直にあげて醒し置き、之に青葉を刻み込て與ふべし、又稍や成長したるものには、成だけ動物性飼料を與ふべし。

（三）雛の運動　は成べく露の深き朝、又は雨天の時は之を避くべし、天氣に日中四五時間運動せしむべし。

鶏舎

（一）鶏舎　は東南に向ひ、間口九尺奥行五尺許りに造るべし、土間には成べく板を敷害獸の侵入を防ぐべし。

（二）塒架　は板の間より二尺程を隔て上に、二三段許に造るべし、斯く造りたる舎内には拾五六羽の鶏を容るゝに足る。

（三）産蓐　は蜜柑箱に藁を敷て二個程備へ之を産卵箱になし其中に一個づゝの卵を入れ置べし、但し此置き卵は新卵と混ぜざる樣印を附け置くべし。

（四）鶏柵　は東南に向ひ三間に五間位の廣さに篠竹を以て造るべし。

（五）管理法　は能く注意して時々舎内に木炭を散布し、少くも一週間に一度大掃除を怠るべからず、若し怠る時は羽蝨發生すれば内外を常に清潔にすべし。

以上にて家庭の養鶏として、ホーム、の緻樂に飼養せらるゝに於ては殆ど盡したりと雖ども、之を專門の飼養法としては頗る不充分なりとす、讀者幸に之を諒せよ、倘飼養者に疑點あれば續々質問を發し給へ(畢)

畜耡子

黄金の砂二つ三つ

女護島兒集

（十五）ビスケットの製法

小麥の粉三合許の中へ、鹽及び豚の脂肪を茶匙に一杯づゝ加へ水一合半程入れて、三十分間許も充分に捏ね合せ、梅干大に圓めて平に壓し潰し、肉叉にて啄き、強き火にて十二分間ほど竈の中にて燒くべし。

（十六）米肉羹を製する法

米肉羹を製するには、五合程の水を鍋に入れ、其中へ米一合程に少量の胡椒を加へ、能く蓋を爲し、略煮たる時上等の牛肉二百四十匁と少許の肉桂を加へ、再び煮熟し能く攪拌して後に火を去りて、之を皿に移し食卓に上すべし。

（十七）揚物の新料理法

野菜にても魚肉獸肉にても、鳥渡一度淪きて、直に引揚、水分を去り、玉子一二個を攪拌して、菜肉の冷たるころ攪拌したる玉子の中へ入れて、又之を小麥の粉にまぶして後、豚の脂肪にて揚れば其味一層美なり。

（十八）雪花菜の料理法

雪花菜も煮樣により無下に卑しむべからず、之を程よく煮には砂糖に胡麻油等を加へ煮るもよし、又味噌を能く摺て之を加へて煮れば、食する時咽喉に苦痛を感ずるとなし。

摘要

○報知新聞の婦人問題

去三十日の同新聞に、婦人問題と云へる社說一篇あり、蓋し尾崎學堂の文なり。世間もし眞誠に婦女子を度外視する者あらば、是れ一家の盛衰一國の興亡を度外視する者なりと云ふに筆を起し、婦女子を等閑視するは、滿天下人類の半數を等閑視するもの也と慨し、伊太利亞の大政治家カブール伯が大策の一たるクリミヤ出兵の智謀は其令姪より出でたりと云ひ、方今歐米の諸大學にて女學士、女博士彬々乎として輩出するを羨やみ、女子教育には、靜淑は古俗を存し、智識は歐米に倣ふの旨義に由り、形上に於て女子の權利を得、冷淡無情なる法律上の權利に拘泥せず、寧ろ其根源たる智識德操品格を上進するに如かずと云ひ、世人もし婦人問題を研究せず、天下半數の同胞姉妹を等閑視せば、風潮の衝激する所必ず其極端に奔到す可しと戒めて、早く形勢の潛遷默移を未然に預備す可しと言へり。

○歷史と女子

國民之友の近號に、愛山生、田口卯吉氏の史海を評して曰く、田口君亦よく婦人に注意せり、白石も之に注意せり、賴山陽も之に注意せり、凡そ女に注意せぬものは、歷史が書けぬ也と。

史傳

松枝富子の信仰

仝姉は神戸女子傳道學校卒業生にして今年六月既に其名を鬼籍に認めたる者なれば今に至て其履歴を述ぶる蓋し其時に非ずと雖も此頃其家に至り遺父母を見るに仝姉が信仰の大に影響する所ありて老の阪登る杖ともなり腰掛ともなれる樣見ていたく感ぜたることあれば時機に拘はらず其信仰の樣を紹介したれば或は益することもやあらんかと

姉が逝後十二旬を經て　姉に愛せられし一弟

履歴　松枝富女は現大阪教會員松枝利助氏の第二女にして文久三年備中帶江新田の自宅に生る年頃小學に入りて勉强し特に裁縫を好くし一時郷孃等の師となれり明治十五年其姉夫婦大阪に來りて居る富女も亦二三年を後れて來阪し爾來其姉の業を助けて共に居る十九、二十年の交照暗女學校裁縫科の補助をなせしが大患に罹りて久しく癒へず爲めに身躰の健康を害し隨て人生を觀ずること深く是に於てか日常其義兄と實姉に由りて教へられたる信仰の種大に長じ病床に在て受洗を志願し二十年一月宮川牧師より受洗するに至れり二十一年志を立て神戸傳道學校に入り故ありて一年休學し二十三年又機を得て入學し二十四年學課休業の間は專ら島の內教會及長春病院內の傳道に盡力し本年三月遂に仝校卒業の榮を得たり。卒業後は島の內教會に働くの約なりしが懸哉多年の學業今や其光を顯さんとする時身病蓐に在て起たず病を家に養ふこと二ヶ月五月下旬長春病院に入りテーラ氏の治療を受け居りしが病日に殆きを加へ遂に腹部切開の施術さへ受けしも其效なくして苦痛煩悶の中に六日間を送り六月二十五日遂に永眠す是其履歴の大略也。

病狀及信仰　姉は其性柔和寡言にして人其胸中何物の存するかを知らざりしされば其信仰の如きも平素に於て別に見るべきものあるを知らざりしが最後の大患に罹りしときは其信仰大に顯はれ人の預想外に出づること多かりき元來多病にして病蓐に在る屢々なりしが常に平和と忍耐を以て之に當り而して其笑顔を呈せる樣恰も病苦を忘れたるものゝ如くなりき最後の病の如き一月來の所患にして其卒業試験さへ專程に終へたる程なりし然るに其校に在るの日家に歸養するの時、病院に在るの間常に喜び人の之を訪ふ者あれば笑て接し以て其快方に赴けるを告ぐ故を以て慰めんとて行く者却て慰められて歸り愛を以て至りし者喜を得て退く而して其病院たるや姉が前夏傳道せし所なりしかば常に祈て曰く「願くば御榮の爲めに此の身を用ゐ玉へ妾が曾て壯健にして働きし此病院に今尙病身を以て御榮を顯はさしめ給へ」と姉が病の腸結核なりしことは腹部切開後知り得しも其初めは醫師と之を判するに苦しみ到底施術せざれば醫治の手段を行ふ能はずとせしに姉は直に決心して神と醫師とに一任し勇氣にも其施術を受けたり施術せらるゝに先つ三日齢將に耳順にも達せんとする其父母を病側に呼で曰く「此度の療治は中々の大事と思へば如何に結果するや計られずされども假令ひ如何なる事ありとも決して妾の爲めに悲み歎きなどし給ふな妾が覺悟する所あり喜んで神意に任すべければ、妾が願は唯〱御二方の眞正の信仰に進まれんことにこそと而して一言餘事に及ぶ所なかりし嗚呼是れ姉が遺言にてありしなり而して惟一の遺言にてありしなり其施術せらるゝの日は朝來身を浴し靜に待つ所あり親友を呼んで愛讀の聖句詩の二十三篇を讀ましめ又贊美歌百五十五を歌はしむ而して自ら祈りて曰く「神よ妾は感謝に堪へざる也汝の恩惠は我が上に溢れり願くば汝の力に依りて幾分なりとも御榮を顯す樣導き給へ此かよはき者も尙用ゆるに足らば御榮の爲め如何になりとも成し給へ」と數ヶ月の就床疲弱殆んど支ふべからざるの身なりしかば此療治は實に生死の境にして或は再び回復し難きやも知れざりしかば斯くは覺悟安心せしや知るべきなり而して醫師內部を檢せしとき驚愕して曰く「アヽ此劇甚なる病に能くも今日まで堪へ得しものかな」と又以て其忍苦の狀察するに足るべきか、醫師の診斷にては治療後一日若くば二日より長く生存すること能はじとせしに案外にも六日間生存せしは生理上不可思議とも云ふべきことにて素より看護其宜しきを得たるに由ると雖ども其大部の原因は姉が確固たる信仰と神に由れるの希望とに基かずんばあらず其就眠に當てや泰然一の悶ゆる所なく獨り口中にさゝやき居りしも注射の爲め口閉ぢ其言ふ所を解する能はざりしは甚だ遺憾とする所惟ふに是正に最後の祈りにてありしならん又特に其實兄に向ひて語る所ありしは正に豫ての希望を告げしものにて信仰に立返る樣勸めしなるべし此際僅に覺り得しは實兄が問に答へたる「あゝ嬉い」の一語にてありき。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

病中曾て其姉に謂て曰く「姉よ妾は此度の病により全く肉の事を思はぬ樣になれり實に（肉の事を思ふは死なり靈の事を念ふは生命なり平安なり）との眞理を解したり」と宜なる哉宜なる哉其病中、其死期一語の曾て肉の事に及ばざりしや又曰く「妾が望みは唯我兩親が眞正堅固なる信仰を得我兄が正しく神に仕ふに至らんとなり」と是れ蓋し姉が平素の所憂所願にてありしなり。

姉が終焉の始末如此其信仰實に如斯姉が病中信仰の樣一たび神戸に傳はるや舊教師ダッレー氏姉の全級生に謂て曰く「彼れは實に貴姉等が多年間になすべき働を一時に爲し了れり斯くてこそ我三年間の教授其效ありたれ」と實に然り實に然り彼若し此三年間學ぶとなかりせば如此平和安然なる終焉を見ると能はざりしやも未だ知るべからず吾人は實に彼れの生涯を知るが故に特に神の攝理の彼れが上にありしとを信せんとするなり。

宮川牧師姉を病中に訪ひ其忍苦の 樣を見て曰く「予が說敎壇に立つ間此姉妹の信仰殊に其忍耐の樣を言顯はすべし」と氏又送葬の式に臨で曰く「此姉妹の如きは日本敎會史中の一に加はるべき者なり」と是れ頗る過賞に似たるが如しと雖ども而かも當時の姉を知る者決して其過譽ならざるを證せん嗚呼姉尙人生の半を殘し殊に其愛者を天涯萬里の異域に遺して逝きぬ肉情實に忍ぶべからざるものありしや知るべきなり而かも此信仰を懷き此名譽を負ふて逝く姉死すとも尙生けり姉は實に多幸の人なる哉、曩きに愛を以て鳴りし常吉兄あり今又信を以て聞ゆる此姉あり松枝家も亦多福なる哉明治二十五年十月廿五日四ヶ月前の今日を追想して記之

○石川阿石

周南山高く水淸し而して佐野嶺を以て第一となす今玆春末北堂に陪し岩淵大悲閣に登り歸途此絕勝の地を過ぐ嶺の北麓孝婦阿石碑あり苔深く字を沒すと雖ども斷續の間其の當時を追懷するに足る噫此山明水媚の境此孝子を產す豈に所以なしとせんや聊か所感を記し以て芳魂を吊し併せて碑文を掲げ其美德を表影すると爾り

周南　古　谷　熊　三

奠孝婦阿石碑

落後山櫻啼鳥聲吟人搔首古今情殘碑一片千行字長止孝婦阿石名

孝婦石川阿石碑

いしは此里の女なり家貧しくて朝夕の烟もたてがたかりしかば夫なりはひのために旅に行きてかへらずいし獨舅姑の足なへの病にいたつけるを晝は背おいて寺に詣で夜はいだきてかはやに行かしめなど手弱女の力にたへ難き事に充しつゝ雨もり風あるゝ窗のもとに麻績糸くりて年あにたへにけりその行ひ官府に聞えてみつぎを免し物を賜へる……於たろかならず終に夫もこれを傳へきゝひとの國より歸り來てもろ共に孝養を盡しけりかくてふたりの親みまかりにける後は民籍にはたぐひ稀なる氏をさへ賜りていさご家の門に旌はせ……弘化丙午になん有ける隣にくまと云女あり石が行にならひ親に仕ふる事まめなりけりあはれ石が德孤ならねばたゞ熊女のみならんや推をよぼさば東いは國山を極め西豐浦の海をつくして人の子人の妻たるらん者皆めでまねびぬべくこそ

いは淵のささささへ照りてしつく玉

いしとはいはしあはれその玉

元治元年秋七月　　藤原宜寸　撰

裏面に慶應元年十月建之　　上田源五郎光美とあり

小説

朝顔

手習屋主人

絶ゆる緣（六回）

されど母の前を退きては誤りなりしとは知りつゝも今日まで睦び來しものなれば今相分れなんと思へばなげきなくてやはあらん。我が常として直ちに夢の如き空想に走り行きて思ふ若し此身にしてほだしなくんば墨染の衣を着て深山の奥に世をのがれんものを――かゝる蝶鳥花月の憂き思ひある世を。古の西行長明の跡をなつかしみ思ひを歌に述べ事によせて之を樂しみ世に又望むとなくして念佛誦經の間に眉しろみ老の年の來たりて我を迎へ去る日を待たんものを。

されども心を靜めて考ふれば我が後の日の恥ぢとも悔みともあるべきとを母の敎へに因りて之より救はれたるは我が大なる幸福なりけり。我はさる博士と云ふ者のあらん抔とは少しくも知らざりしが今これを聞きては速かに之を避けて房子と今日迄の交りを次第に疎くすべきの時なるを知る。さらずば彼が兩親は先づ我をにくみて我が幼き日彼等に受けたる恩は仇を以て返さんとするに至るべし。房子も未だかゝる理を知らねば一度はかなしみもせん。されども西の國の詩人の歌ひし如く犬も直ちに主人の顏を忘れて吠ゆると云ふに均しく彼も我も直ちに相忘れて遂には互に知らぬ國の人を見る如く成らん。されば此瞬く隙のかなしみを割かんこと何の難きあらんや。

又我れある時思へらく今の世の人多く商買などの方に傾きて只管利得の道にはしり命危き軍人の望みを立つる者よう〱に少きは歎はしきの限りにて我は國の爲めに身を捧さげんと誓ひしことありき。かゝる誓ひありて心を引かさるゝ妻子を持たば此志に悖ることもあるべけれ之を打ち忘れて今日まで彼と親しく音信などしてありしは我ながら怪き事なりし。此等の事をも房子に遇ひたらば精しく語り聞ゆべし。

＊　＊　＊　＊

かくて我れ菊地が家に行きけるに父母は家にあらざりしが婢は房子の言葉を傳へて「今ほどなく歸り玉ふべければ暫し待ち玉へ」と云ひぬ

房子は机の前に坐はりて白き絹手巾もて楕圓狀の玻璃の手鏡

を拭くひつゝありし。

「我は待ちあぐみてありしを」とて我を眺めぬ。これ見玉へ。かゝる美くしき菖蒲の花見玉へ。されど菖蒲の花も……菖蒲の花も房子が生けねば斯く美しく見ゆまじ。」絹手巾を投げ捨て鏡を我が顔の前へさし出し「見玉へ。君がかこち顔を見玉へ「又鏡をなげ「君はかく鈕の一つはづれたるを知らで」と云ひて之をかけ我が耳に口よせて「今日父上が君を呼びよせ玉ひしは君が意を問ふとあらんとてし。君は少しも耻ぢ憶する事なくて答へ玉へよ」と云ひしが其狀はいそ〳〵としてありし。こは今日緣の絕ゆる日ならんとはつゆ知でなりと思へば哀し。我はしづかに「房子。我等は幼き童共の如き心得違ひをなしてあり」と云ひて母の我に告げたる遺言を語り出でたるに彼は忽ち淚を浮べぬ。我れ始めよりかくあるべしとは思ひぬ。もと彼が本性はいと心細き人にして軟かなる草花の日の光に遇ひ僅かの風の來るあるも直ちに凋れ萎まんとする如くなり。又幼き時より人つき合ひしたる事もなければ舟子が海の上に柁を失ひたる如き思ひをするならんか。

「父母の命せは神の命せとしてこれは從はねばならぬことを知り玉はずや?。」

「房子はさる聞き分けなき人にはあらざりし。」

「亦此後我は何事にも御身が力になる故必ず我に計り玉へ。」

我が言每に彼は泣きつゝ頷きぬ。

暫くありて父母も歸り來たれば房子を遺して我は彼等が前に行きぬ。

父母は先づかの博士がかゝる求めを爲すと告げて又我が父のありし日我等二人に付きてかく〳〵と相語らひしともありしが年月經たる事にもあれば今に至りて我が心換はりなどもありては後に至りて房子が身のために悲しむべき事あらんと思ひて問ひ確かめんが爲めと云ふにありし。

時事

○痴戲の警官

警察女官(ポリス、メトロン)の設置に類する處置追々に必要となるを憾みとす。去三日讀賣新聞紙上に、痴戲の警官と題せる一項を讀みたるものは、誰か其の無禮に憤ふらざるも

のあらん。此事果して眞なりとせば、四民は皷を鳴らして此の不德なる警官を叱責し、以て嚴そかなる處置を警視長官に促がさゞる可らず。もし果して虛報なりとせば、公衆も見、外國人も見る新聞紙上に、如此き不名譽の記事を斷じて掲載せしむ可らず。

○お艶を悼む

紅葉山人が「三人妻」は實談を寫せるなりとも云ふ。若し然らば、太はだ切にお艶を憫れむ。或ひは一の作り物語とするも、お艶の如き成行は、女性にありがちなれば、更に女の性情の爲に悼むの念なくんばあらず。彼女は初め純潔なる處女なりき。其終は貞篤なる寡婦なり。中ごろ欺かれて一度び汚さる、彼女が高義は之れに戰栗し、而も其肉情は稍やくにして之に狃る。此に至ては女性の執着なる情愛すでに發育し、亦取返すべくもあらず。彼女は遂に知らざる間に、昔しの下郎を殿樣となし了んぬ。あゝ是れ女性の迷のある所にして、亦女性が美質の存する所なり。之に乘じて慾を達し、遂に純潔なる處女を汚して其一生を皆無となすものは男子なり。あゝ、人の罪は猥りに冷罵すべからず、罪の出處は大概ね世にもてはやさるゝ人の上にある也。

寄書

涙の日記

在故山　方寸子

十一月五日、朝來雨蕭々たり。外出も出來れば室に閉居して新聞を讀む。時恰かも正午近く、在京有作第より端書着せり。一見してのち、再び新聞を讀み續けしが、讀みし記事の何にてありしや、記臆には遺らず。晝餉も濟みたり。獨り密かなる室に入り、轉じて二階に登る。眺れば靈の巣山水裏の秋色、今方に老ひんとして、今日雨蕭々たり。

今は傘さして出でゆく。離れたる長家の一室に入らんとせしに、履物三つ五つ入口に並ぶ、既に浴客の占め居るにや。此室二ヶ月の前には、元氣よき兒童の俤を見しが。

憶ひ記す、日山の端に沒れて、松陰風涼しき夏の夕、われ小供等と打連れ、幾度か園中小山の邊りに嘻戲せりしが、今や松葉より數る井屋の當り秋深うして夏已に遠く。小山の此處彼處小さき足跡見分かれど、瞑目すれば今も猶ほ、阿波縮みの筒袖に唐縮緬のサンヂヤク下げたる跣足の兒童が、莞爾として馳せ上り馳せ下るを見る。われ馳せ上る小さき手をおさへて主の使はと云へば、彼れはクリスマスの稽古に暗誦し習きたる聖書の章句を眞面目に讀み出すなり、更にわれ「たてよつはもの」と謡ひ出せば、彼は又威勢よく聲を高めてうたひ合はす也。今にして追懐し來れば、小さき俤わが前に現はれ、一風變れる可愛き音調耳に在り。感迫る。再び室に歸り來れり。不圖遺れゆける阿波縮みの小片を簞笥の中より取出だして、涙こぼしぬ。

佐々城進ちやん事先日よりヂヒフテ病の處養生相叶はず昨午后四時永眠仕候此段不取敢御通知申上候也、十一月二日夜云々。

已んぬる哉、あゝ佐々城進の名限りなく聞くべし、時維れ明治廿五年十一月一日午后四時ののち、彼の俤や見るべからざる也、噫。

山月子曰く、是れ社友方寸氏の寄する所、氏附記して曰く「昨日佐々城姉の三男進氏永眠の報に接し、可哀想に堪へずして日記に所感を認めたり、夏期わが靈の巣に在りて元氣よく遊び居りしが、日記のまゝ原稿紙に寫して送る、文飾りなき實事のもの、見るに足られど、一讀酸鼻に堪へず、載せて女學雜誌の愛讀者に示す、死別の悲みは余が屢々嘗むる所、兄一片の同情を表し給へ云々」と、夫れ老少不定、死の手は何れの時吾人を捉らへ去るやも知るべからず、我が親愛なる同胞よ、何ぞ深思せざる、爾の脆き身の爲めに、爾の不滅なる魂の爲めに、短き人世の爲めに、永遠なる靈界の爲めに。

女報

可愛子編

●皇后陛下御用品　同陛下には、十月廿四日美術展覽會へ行啓の節御躬御選定にて御用品となりし繪畵は左の三點にて、中にも森協雲溪門人上原雲嶺の出品は、幼年生にして上出來なりと御賞めありたりと承はる。

高台寺觀月橋の圖(今尾景年)　芙蓉白鷺の圖(飯田敬三)　梧楓秋菊の圖(上原雲嶺)

●皇后陛下行啓　同陛下には、十月廿六日青山御所に行啓、十一月四日、又同御所に行啓、同七日には、皇太后陛下神奈川縣下へ行啓御奉送として新橋停車塲に行啓、同十一日は鹿鳴館に開設の婦人慈善會へ行啓遊ばさるゝ筈。

●皇太后陛下行啓　皇太后陛下には去る三日午後二時御出門、宮城へ行啓あらせられ、又た同陛下には轉地御療養の爲め、去る七日午前八時御出門、神奈川縣下三浦郡葉山村へ行啓、凡そ二週間御滯在の趣。

●參内　清國特命全權公使汪鳳藻君は、去る二日午後二時參内　皇后陛下より謁見仰付けらる。

●婦人慈善會の開塲日取　同會は去る十日より三日間鹿鳴館に於て開設すべき筈なりしが、都合に依り、昨十一日より三日間開設することに改めたるよし。

●日本赤十字社看護婦　過日の陸軍大演習の時、石黑陸軍々醫總監は、日本赤十字社派出の醫員看護婦等に對して左の告諭をなせりといふ、

本邦赤十字社の設ありて既に數年其事業目的は戰時兵站以內に在て我衞生部の事業を翼賛するに外ならず然れども未だ其作業を實驗するの好機會なかりし故に万一開戰の時に於て貴重なる軍人を之に托し果して我衞生部の目的を達し得らる可きや否に至ては余甚だ信を確めざりしが今回社長より陸軍省への懇請により此大演習に際し天幕病院を設け且滊車を裝置せしめ此地より東京に送る可き病兵を托し日々其實況を檢視するに治療及取扱の方法に就て頗る其當を得後來不幸にして實戰に遭ふの日に於て兵站以內に於ける我衞生部作業の一部を托するに足ることを信認す

以上醫員及看護婦の技術上に付て述ることを如此其全般の事に至ては師團軍醫長の詳細なる報告により大本營より示さるゝ所ある可し

明治廿五年十月廿六日午後於宇都宮

陸軍々醫總監　石黑忠悳

●ウエスト孃の矯風演說　十月十七日より三十一日まで左記の處に於てウエスト孃を聘し、禁酒矯風の目的を以て演說會を開けり、

十月十七日(月曜日)午後二時開會	本鄕春木町	中央會堂
同　十八日(火曜日)午後二時開會	京橋區西紺屋町二十番地	銀座會館
仝　十九日(水曜日)午後二時開會	赤坂區靈南坂町十四番地	南坂教會
仝　廿　日(木曜日)午後六時半開會	本所區緑町二丁目	本所教會
仝　廿二日(金曜日)午後六時半開會	京橋區築地明石町十三番館	海岸女學校
仝　廿二日(土曜日)午後二時開會	牛込拂方町	牛込教會
仝　廿四日(月曜日)午後二時開會	麻布鳥居坂	鳥居坂教會
仝　廿五日(火曜日)午後六時半開會	麴町區中六番町	番町教會
仝　廿六日(水曜日)午後六時半開會	赤坂區青山北町二丁目	青山教會
仝　廿七日(木曜日)午後六時半開會	芝區田村町	芝區教會
仝　廿八日(金曜日)午後二時半開會	神田一ッ橋外	帝國大學講義室
仝　廿九日(土曜日)午後六時半開會	京橋區築地明石町十八番	築地教會
仝　卅一日(月曜日)午前十時ヨリ午後三時迄　送別會	小石川區砲兵工廠內	後樂園

●ウエスト孃の日本赤十字社病院に於ける演說　米國私立大學校長メレーアーレン、ウエスト孃は去る四日日本赤十字社病院篤志看護婦人會の招待に依り、當日午後より同所に赴かれ、孃が嘗て米國南北戰爭に際し、自ら請ふて看護婦となり、晝夜各所に奔走し創病者を看護したる當時の實況、幷びに之が結果等を詳細に演說し、右終て同會幹事長小松宮御息所賴子殿下は、來院の勞を慰し、尋いで同社員章を贈與し、夫より茶菓の饗應ありたる由にて、當日の來會者は、佐野同社長、橋本同病院長を始め、常議員、又看護婦人會に在りては同會副幹事北白川宮御息所、有栖川(若宮)宮御息所閑院宮御息所、小松(若宮)宮御息所等を始め、之に關係の貴婦人等十數名にてありしと云ふ。

●ウエスト孃來遊の目的　孃が渡來の目的は、重もに日本內部の禁酒的諸會の基礎を固むるにありとて、過日來屢〻諸會の委員を集めて議する所ありしが、去る十月卅一日後樂園にて開かれしウエスト孃送別會を折として、東京婦人矯風會は其臨時總會を開らき、同會在來の規則書に一二ヶ所の修正を加へたる筈、又女史は府下及び日本中の婦人禁酒會間に互ひに連絡を付け、引きて米國にある萬國禁酒會とも今少し親密なる文通をなさばやとて、種々奔走せられしが、今月よりは關西地方を遊說して、十二月中に再たゝび東京に歸へらるゝ豫定なりと。(婦人矯風雜誌)。

●高等女學校生徒の運動會　高等女學校の生徒一同は、過日芝公園地に於て大運動會を催せりと。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●宇宙女學校　は麹町區飯田町四丁目五番地にあり、宇宙神教派の立つる所、特に生徒の德性と品行とに注意し、務めて西洋風に偏るを避け、眞正なる日本婦人を養成するを目的とすといふ。横尾はつ子氏は先月以來同女學校に於て數學と縫箔とを教授せらる。

●麹町愛隣會　にて目下施療せる患者の數は、一ヶ月平均四十名餘にて、投藥日數凡そ千二百日、之を一日分の藥價四錢と見積れば、大概四十八圓餘なりとぞ。

●美人笑中に泣く　嘗て華族女學校の教課兼業を囑托されたる小鹿島筆子は、農商務省八等技師小鹿島果氏の夫人にして、容色衆にすぐれ、品行の方正もまた當時に得難きほどなり、又和漢西洋の學に富めるも言語動作苟めにも學者振りたる所なく、能く夫に仕へ子を育ひ奴婢を召使ふに信切なることは知る人の感服するほどなり、然るに同子が生みたる一人の小兒は、兎角病身にて是まで藥を絕やせし日もなく、其上夫は先頃より重き肺患にかゝりて、蓐に就きたるまゝ起きも上らぬ大病に、筆子の悲歎遣る方なく、種々に治療を施せど、何時全快すべしとも思はれず、夫親の病には衣帶を解く暇なきは貞婦の常なるに、一方には病身の小兒を抱へ、其上學校へ出勤することありては、何分思ふ儘の看病も出來ればとて、先頃學校を辭したる後は、夜の目も寢ぬまでに夫の側に附き切りしが、國手の診斷いかにも心細きことのみなれば、此上は巖も徹す女の一念、我が看護の力もて夫が病を治さんものと、或る國手に就て絕躰の意見を尋ねたるに、國手は萬一の好果を期する爲め、左の五ヶ條を示したり、即ち肺病には素と特効藥のあらざる事諸國手の言ふ如くなり故に藥を以て治病の最能物と賴むは死を促すの第一なり食氣に付きたるを喜び病躰不權衡の飲食を進むるは死を促すの第二なり、治療のみをことゝして病者を勞らし其安眠を妨ぐるは死を促すの第三なり、病者を勞はるに過ぎて溫熱を增加する（例へば多く衣服を着するの類）は死を促すの第四なり、一家憂色ありて病者に苦心せしむるは死を促すの第五なり、此の五ヶ條にして能く實行し得るに於ては、人類生活機能の自然によりて、重患も或は平癒するに至ることあるべしとの事に、筆子は太く喜び、夫子の病氣に狂する許り心の中は悲しけれど、故と之を制して、痩せ衰へたる夫の側に侍し、此のみ春の來れる如く始終微笑みて甲斐々しく樣々に其心を慰めて、苦しき淚を咳にまぎらし、只其病の重からざらんことを敢果なき賴みにして居るさまは、健氣にもまた憐れなりとて見舞へる人々皆袖をぬらさぬはなしとかや。（讀賣新聞）。

●寡婦離婚に關する大審院の新判決例　上告者直井齋次郎、西野もと代言人小久保端造氏より、被上告者西野小平代言人日山彥十郎氏に係る離緣送籍事件は「寡婦は單に夫の死去のみを原因として實家に復歸するを得るや否」と云ふ法律上の問題を決定せざるべからざる難件にして、是迄判決例もなく又現行法及新民法にも規定なきを以て、法學者間兩說に分れ、甲說は單に夫の死去のみを以て婦は實家に復歸するを得と云ひ、乙說は他に正當の原因なき場合には家長の承諾あるに非ざれば能はずと論じ、東京地方裁判所及上告代言人は甲說を執り、東京控訴院被上告代言人大審院立會撿事は乙說を執り、口頭辨論の際にも頗る議論ありしが、終に大審院は甲說を採用し裁判したり。

●橫濱淑女館　今回橫濱市尾上町一丁目九番地に創設したる橫濱淑女館は、同港の村河正雄氏が多年計畫したる者にて、愈々紳士豪商の贊成を得、去る五日開館式を擧行せし由。

●貸座敷を近けんとする請願　相州橫須賀にては貸座敷を隣村柏木田に移されしより、町內の戶數も減じ追々不景氣となりしのみか、曖昧なる飲食店などのみ增加する故、間近の地へ移轉されたしとて、町會縣會の議員連も周旋し、內務省へ請願する由、此等の問題は、よく〳〵沈んで考へざるべからず、目の前の事のみ見ゆる連中の動くは、何處も同じ事なるが、議員等の輕卒にも、之が周旋の勞をとることは、何たる大早計ぞ、吾人は更に三思を促がす者なり。

●孝女　茨城縣下市赤沼町に住む某といふは、元は可なりの暮をせしものなるが種々の憂目に逢ひしため、今では朝夕の煙りさへ漸くに形ばかりに立てゝゐる哀れ果敢なき境界となりし上、搗てゝ加へて先頃より某はフト病の床に臥し、日々重り行く樣子に、娘お淺（十八）の心配一方ならず醫者よ藥よと手當を盡したきは山々なれど、貧困の身の哀しさ心のみ逸りて力足らずさうかうするうちに、某の病氣は漸々烈しくなるのみなれば、お淺は夜もろく〳〵眠らずに介抱せしも何分金に乏しき爲め、思ふやうに看護も出來ねば、お淺は健氣にも覺悟を定めて本町五丁目邊の蕎麥屋へ奉公し、給金を前借して父に醫者を迎へ藥を買ひ、又は口に叶ふやうなものは何なりと求めて病人に喰べさせ、自分も暇ある時は家へ歸りて父の看護におさ〳〵怠りなしといふ。大日本教育新聞）。

●靜岡彰榮女學校　は宇宙神教派の立つる所、先月十一日開校式を行へり。

●節婦　京都府丹波國天田郡六人部村吉良久吉の妻たつは、久吉に嫁してより、よく婦道を守り、常に其意に從ひ其心を慰め、夫久吉が罹病後は能く貧困の家政を調理して、數人の子女を教養し、其行爲孝感すべきものあるより、此程京都府知事は賞狀に金一圓五十錢を添へて賞與したり。

●若州小濱基督教會婦人會　北陸南端の小港小濱は一の基督教會を有せり、日本聖公會傳道會社に屬せり、婦人の信徒比較的に多數にして、婦人會は盛んなり、每月二回集會、信仰上の感話、家政上の談話、或は女學雜誌、福音新報を讀み聽かす等のことあり、近頃一名の女子傳道者來りて熱心に働き居れり。

●波光女史の漫遊　東京の畫家波光女史は、目下北陸地方を漫遊中なりと。

●金澤市のハンカチーフ業　同市工女の手に成れるハンカチーフハ橫濱にても好評を受け、追々隆盛に赴く由なるが、目今此業に從事する女工總數は六千人、此中片手間の者を除き專業四千人にて、一年間の同業統計表を作れば左の如し。と婦女雜誌に見ゆ。

工女一ヶ月平均四千人　　十二ヶ月總人數四万八千人
ハンカチーフ出來高　九万六千ダース　工女一人に付一ヶ月二ダース宛製造
此代價二十四万圓　一ダース平均二圓五十錢
金八万一千六百圓　羽二重地代價　十ダース丈一匹八圓五十錢宛
金六万七千二百圓　女工賃錢　一ダース平均七十錢
金三万八千四百圓　絹糸代　一ダース糸代四十錢
合計金十八万九千二百圓
差引五万八百圓　利益金

●富山縣下に於ける廢娼論　過日富山市に於て廢娼論起りしより以來、演說會に討論會に此議論唱道せられ、礪波郡城端町の濟美會に於ても此程討論會を開き廢娼を可としたり、若し現今の有樣を以て考ふれば、或は遠からぬ內富山縣下の一問題となりて、縣會塲裡に出現するに至らんも計り難しと、同地の通信者は云へりと。北陸新報に見ゆ。

●毛絲細工　土佐國高知市種崎町中村洋物店にては、これ迄毛糸細工物の輸入を受け居しも、何分其の中には不向きの品ありて面白からぬ所から、今後は毛糸細工に巧者なる女子十名を限り雇ひ入れ、自店にてそれ〴〵の品を注文に應じ製することに決したり。と高知日報に見ゆ。

●密航婦女の誘拐　山口縣馬關にて森山佐吉、松本勇三郎、渡邊菜等が十五人の婦女を誘拐して密航を企てたる顚末を聞くに、松本渡邊の兩人は長崎にて婦女を募集し、二人三人づゝと送り來り、佐吉は此處彼處に預け置きしが、其後我家に連れ歸り奥座敷及び離座敷の床下に隱し置き、握飯を與へしのみにて二晝夜を經過せしに、天網の洩さゞる所遂に其筋の知る所となり、遂に縛に就きしが、松本渡邊の兩人は屋根傳ひに濱に飛下り、今に行方知れず、又吉田常吉、村田久吉、小林伊三郎、重岡伴藏妻ツ子の四人は、共謀して四人の婦女を誘拐し朝鮮へ密航せしめんと企てゝ是も拘引せられたり。

●大浦慶子の紀念碑　鎖港の禁、存在せし當時に在て密かに淸蘭二國の海商と貿易を爲して巨利を博し、後、英蘭人に託して茶及び生糸を英、米、伊、アラビヤ等の諸國に送り、本邦茶、生糸輸出の端緖を開きし、有名なる長崎の慶子は、明治十七年四月十三日五十七歲を以て死沒せしが、今度長崎市公園地に、慶子の紀念碑を建設せんと、昨今盡力するものあり。

●大分高等女學校の設置を延期す　大分高等女學校の設立は、先に文部省令を以て發布したる尋常師範學校科程度を改正せられたるより、該校よりは師範學校內に講習科を新設するの急要を生じ、教育費の增加するを以て縣費より補助を受くることゝ出來ざれば同校の設置は延期したりと云ふ。

●女子同窓會の秋季總會の決議　十月廿九日仙臺東二番丁小學校內に於て開きたる第五回女子同窓會の總會に於て、是迄常務員七名とあるを十名に、又每年三月十月の兩度の總會を四月十月の兩度に開くことに改定し、役員改撰には櫻田たりよ、鹿又たつよ、遠藤まさ、木村ゑい、增田じゆん、岩淵みきよ、加藤はる、柿田たけよ、伊藤きくち、大和田たけよ、の諸子當撰補欠員當撰者は遠藤みさを、木村はつ、村上さくの三子なり、終て遠藤市長大立目宮城郡長の養蠶上有益なる演說ありて、後協贊員及會員に茶菓を饗し散會せし由、又協贊員今井秀之助、大立目謙吾、松村つれ、眞山寬、杉山とし、守井はつえ、下野きし、太田そへの諸氏より金員書籍等を同會へ寄附せしと。

●女子師範生の撰擇　去る十九年十月文部省令第十八號に基き、來る二十六年四月入校せしむべき女子師範學科生徒三十二名を、今度試驗生として募集する由にて、女子高等師範學校長より該生志願者撰擇方を北海道廳に照會せり、因て道廳に於ては區長に其撰擇方を命ぜられたるが、其志願者は去る五日頃迄に履歷書を携帶して區長に申出でゝ區長は其申出を受くれば之を撰拔して公立病院醫員をして躰格を撿査せしめ、又た試驗問題を出して答案せしめたる答、而して其撰に當りたるものは撰擧生といふ名義を以て派遣せしめらるべし、尤も右志願者は未婚の婦人に限るとの事。（北海道每日新聞）。

●女乞食氣焔を吐き藝娼妓顏色なし　北海道小樽入舟町奥火葬塲近所に年頃四十ばかりの女乞食あり、同人は盲目にして三才計りの小兒を背負ひ、七八才の娘に手を引れ、二三年前から同港内を徘徊して、アヽレ一文二文の手の內を乞ひ、露の生命を繫ぐ身なるに、其小娘は尋常の生れにて、十六七にもならば人の目に付くる女ともなるべし、今より仕込で藝者か娼妓にでもなさば大金にならんと、慾に拔け目なき或る飮食店の女房が、毋乞食に向ひ養女に吳されぬかと問ふに、其の思召はありがたけれど、賤しき娘をお貰ひなすツて何になさるゝ、それだけ野暮なり、大切に育て成長なば藝者か花魁衆にでもして全盛の流行妓にさせやうとの事、其の時はまた强い大盤な身受して瑶の輿に乘るまいものでもない、何と否やはあるまいと云へば、乞食は口尻をキリヽと釣上げ、折角の思召しではありますが、御免蒙りますと、可愛い娘を藝者や娼妓に致す位ならば、乞食はいたしませんと跳ね付けられ、女房開いた口も閉がらず、茫然として居る顏を冷笑ッて橋の下へと立去りたりと。（讀賣新聞）。

●昨二十四年和歌山縣下女學の槪況　◎高等女學校は一個所あり、和歌山市立に係る、本年の創設なるを以て未だ著るしき事項あらず、又生徒の數は二十七人の少きに居ると雖も、漸次進步を期し居れり。◎私立學校に女教員たる者は六人あり。◎私立學校の女生徒は百四十八人なり、其卒業生は八人ありとぞ。◎幼稚園に保毋たる者八人あり。

●昨二十四年青森縣下女學の槪況　◎師範學校に於ては、高等科女生徒の英語を廢止し、裁縫を以て之に換へたり。◎私立弘前女學校は二十二年の設立に係り、其學期は三ヶ年にして、教員は男二人女五人、生徒は女六十人あり、之を前年に比すれば教員は女一人、生徒は十三人を增せり、同校の教育は智德兼進を目的とし、善良有用の婦女を養成するに在りといふ。

●三重縣通信（第一報）

◎三重女學校　同校は何に故か理化學器械及び博物標本を、ことごとくこたび新に設置せられたる明合高等小學校に賣り渡したり。

◎賦金について知事の意見　昨年來本縣惡業營業者に於てしば〳〵集會を催し、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遂に縣會に請願したる藝娼妓賦金減額の件は、同會の否決によりて一時その氣談を收めたるが、この頃又々右の運動を試みんと計畫せるものあるよしにて、運動者の一人なる久居町近藤某は、過日成川知事をその官宅に訪ひてその意見を叩きたるに、知事の曾はるゝには「今の場合にてこれらの請願が縣會にて容れらるべしとは本官の信ずる能はざるところなり、故に諸氏が如何程運動をなすとも到底水泡に屬すべければ、其運動は一旦中止さるゝ方得策ならん、然れども娼妓に梅毒外の疾病にかゝり休業のもの、また入院中のものに賦金を課するは、聊か穩當を欠くの嫌なきにあらざれば、或は贊成を見るともあらん云々」猶同人より娼妓の營業期限八ヶ年とあるを、十六年より三十年まで十四ヶ年となされんとを請求せしが、やがて同意を得たりとか。

●三重縣通信（第二報）

◎三重女學校愈々危し　同校が財政困難のため、あるは師範學校女子部設立の説あるゆえ、同校の器械萬端を女子部に寄附してその設立を助くべしといひ、あるは課程の高抵、到底合併は六ヶ敷かるべしとの反對論者もありしが、本縣知事はいよ〳〵本年の縣會に女子部の經費を要求せしにつき、もし縣會にてこれを可決すれば、同校一切の家屋建物器具を寄附せんとて、同校管理者鈴木敏勝氏より知事へ上申せり、因にいふ女子部は縣會にて多分否决せらるゝならんといふ。

◎女學生の修學旅行　桑名郡長島高等小學校の女生徒數十名は、修學旅行として四日市町にいたり、紡績、製紙、製油、精米の諸會社の工場を一覽したり。

●會津通信

◎若松婦人會は基督教主義の會合にして、毎月二回集會し、諸種の講師を聘して家政育兒衛生教育等の講話を聞く、會するもの平均三十餘名、別に女學に關する書籍雜誌を購求し、會員之を回覽して新思想新智識を追究しつゝあり、禁酒家起り基督教徒出づ、後來頗る有望の會なり。

◎幼稚園起らんとす　當地には一の幼稚園だになく遺憾なりしが、豫て東京婦人矯風會の爲に力を盡し、又幼稚園の爲めに働き居られし海老名りん子の歸鄕ありて、自ら幼稚園を起さんとて、目下之が準備に取掛られたれば、不日開園に至るべし。

●宮城縣仙臺通信

◎宮城監獄入監人員　九月末現人員は總計千百八十七人にして、刑事被告人は三百六十九人の中、男三百四十三人、女廿六人、囚人は八百一人の內、男七百卅二人、女六十九人、懲治は男二人、別房留置は男十人、携帶乳兒は男一人、女四人なり。

◎宮城女學校の文學會　十月八日午後七時頃より當市東三番町宮城女學校にて文學會第二紀念會を催せり、中々の盛會にて第一會よりは頗る進歩せし如く覺ゆ。

◎慈善教育會　女子實業學校創立發起者なる當市伊藤梯齊氏は、教育に熱心なる人にて、これ迄貧民子弟の救養に力を盡されしが、今般其規摸を擴大にし、慈善教育會を組織し、從貧民子弟の教育に從事せんと、目下其奔走中。

◎看護婦人會　は十月十五日當市東一番丁本瀧寺仙台別院にて開會。

◎慈善教育會の贊成者　當市大町二丁目藤崎きよ女史は、同町近隣の子弟へ毎月々謝惡送の儀を申入れられたるにつき、主任伊藤氏は早速片手町小學校へ通學の手續をなしたり。

◎子孫八十五人　本縣下の農夫阿部喜惣治は當年八十八歲、妻政八十五歲、何れも壯健活潑、喜惣治は今尙田畑に耕耘せり、同人の子は六人にして、孫、曾孫を合せて實に八十五人の多きに達せりと。

◎熱心と時計　當市日本基督教會員宮部某女史は、熱心なる信徒なるが、該會婦人の創立に係る義捐金に盡力周旋せられし中、毛絲編物教授をなし、三年中の長日月を費し、六圓金の大時計を寄附せられたり、聞く、該金額は、一の儲金箱を、拵へ置き、子弟の報酬を持ち來りし者を悉皆入れ置きたるものなりと、其三年中の後、開箱の日の愉快は同女史生涯中の樂みなりと、同女史自らいへりとぞ。

●大分通信

◎不潔營業者の日々增加し、風俗を亂り靑年子女を毒するとは何所とも一樣にして、心あるものゝ慷慨する所なるが、本縣風俗掛り大に此に見る所ありたりと見へ、過日來大改革を初めたり、先づ料理店へ制限を置き、所謂酌婦てふのものゝ取締を嚴密にし、凡そ曖昧なる婦人は醫官之を能し置きて容易に其家に奉公せしめず、都合によりては保安條例を下して町外に放逐するとあり、近頃愉快なる英斷と、正義の友は其筋の注意に感服し居れり。

◎當大分縣は從來保守の精神に傾き、女學の如きは最も不振なり、有志の士は一私立高等女學校を設立せんとて、目下計畫中なり。

●臺灣の風俗（通信）

◎土番男女の關係　臺灣土番の婚姻は支那內地の婦女の如く賣買せらるゝとなく極めて自由なるものにして去りとて又掠奪がましき野蠻的の風習なし則ち年少の男子婚姻の事を知るに及んで恰も適意の婦女を見れば其後幾日となく日每に其女子の門前に立ちて樂器を弄す女子之を聞き出て相見て悅へば即ち直に戶外に走り男子の手を把りて誓言するなり斯して後始めて各相悅ぶの事實を其兩親に告ぐ兩親は其に就て少しも容喙するとなく直に式典の儀を整へて以て女子の家に之を擧ぐ之より男子は永久女子の家に留在して其生家に就ては恰も歐米の婦女子が男子に嫁したる後の如く全く無頓着なり臺灣の俗男兒の出生を悅ばずして却て女兒を得て好婿を迎へ安樂に一生を托せんと欲するもの比々之なるは亦故ある哉而して

其住居たる數多の男女一齊に混住するものなれども男女の禮は毫も紊るゝとなく極めて規則立ちたるものなりといふ。

◎移住民の男女　却て之を移住民に見るに近來淫猥の風極めて盛にして男女多くは浪蝶狂蜂閨闥に往來して怪まず視て以て常事となす女未だ笄に及はずして娼となるものを名けて聽食といひ他人の幼娘を買ふて媳となすものを苗媳といひ長ずるに及んで家に婿を贅し名けて招硬といふもし女醜なるか或は色衰へて婿たるべき人なければ仍ほ聽食たらしむ人死してもし媳婦數人あれば即ち以て數代の媳婦ありとなし喪門外高掛の燈籠に大書して四五代大父母といひ單に人の知らざらんとを之れ恐るゝが如し前々督撫劉銘傳は尙台地開化の草創に際したるを以て風俗等に顧るの暇なかりしが今や大概其緒につきたるを以て現督撫は大に心を國家成立の基礎たる風俗の匡正に用ゆるもの、如し則ち左に錄するものは現督撫即筱村が今年三四月の交臺地の婦女に降したる諭示に係る。

頭品頂戴兵部侍郎福建臺灣巡撫兼海關學政邵臺地の婦女に勸諭するの事

本院素と人のいふを聞に台地の婦女多くは閨教を知らず錢を愛し貪財甚く男子と往來し門に倚て客に接するを以て常事となし人々傳て以て美談となす天下無恥の人台地婦女の甚しきが如きものなしとよりて本院渡臺以來細に情形を察し爾等婦女の爲に屈を叫ぶ蓋し爾等良に恥なきに非るなり全く無恥の事をなす其因約そ三あり舊俗已に久しく年幼無知の女其姑若くは母の所爲を習見して復た恥つべきの事たるを知らざるの一と明かには非を知るも而も大姆に逼られ從はざれば即ち詬罵毒打せらるゝが故に羞を含み辱を忍んで而して之を爲すの二と年少にして遠慮なく但暮舞朝歌の樂を知りて失身の害を計るに暇あらざるの三なりと本院既に其故を察知するが故に遽に刑罰を加ふるに忍びず先つ此の三端に就て一々爾等が爲に利害を開陳せん尋常の男女大半は是れ年輕相愛し年老是れ棄つ然も夫婦の分あらば情義あるの男子は固より白頭諧老を願ふと雖情義なきの徒も亦名分に限られて敢て相棄るとをなさじ爾等東張西李人々皆夫となす一旦色衰へば誰れか復相顧みん或は他人の女を招き以て媳となし老を養ふべしといふも萬一兩少相愛し互に挈手して逃去せんには爾等之を官に訴ふると雖官亦爾等の爲に這の醜案を理る能はざるなり爾等試に想へ則ち但暮舞朝歌の樂を知りて而して窮老の日を計らざるもの身卹すべきなきを思はゞ以て惕然省悟すべし其大姆に逼らるゝものは則ち當さに本院より地方官に通飭して留心大姆の名目を査禁し隨時拿究し如し逼らるゝものあらば該婦女の即刻官に到り控訴するを許し官より法を設けて之を保護し斷じて報復の嫌を狹ましめじ爾等試に之を想はゞ大姆に逼らるゝものは以て欣然改圖すべし其習俗の久しきに由るものは本院其の舊俗を細思するに亦元來惡にあらず台地人民の原籍は多くは之れ閩の漳泉粵の潮嘉にして而して漳泉の人尤多しとなす夫れ漳泉の地方たる自ら宋朝朱文公の化を受け婦女最も禮法に明なり朱公の廉朱公の單天下今に至るまで傳て美談となす祖宗は天下の美談となり子孫は天下の笑談となる則ち原籍の舊俗に非る知るべし臺地後山の生蕃冥にして法を知らずと雖而も男女の疏は甚嚴なり爾等均しく清朝良の民にして甘んじて娼妓無恥の事をなし反て粗野の蕃人に如かず爾等試に一想せば舊俗に沾ふものは以て勃然興起すべし又聞く爾等家中俱に觀音菩薩を供養して以て福を求むと試に想へ爾等良家の兒女に强迫して其身を辱しめ又人家の子弟を誘壞し人家の產を破る菩薩知あらば爾等を極樂世界に置かんとするか將た刀山劍樹に置かんとするかを怕るべし怕るべし爾等よく本院の勸をきかば禍を轉じて福となし辱を移して榮となさんと必せり若し本院の言を聽かず依然無恥の事をなさば則ち嚴法當さに其後に隨ふべし爾等其れ之を細思して後悔を貽すとなかれ特に示す。

◎米國大統領夫人の逝去　米國大統領ハリソン氏の夫人は、十月廿五日を以て逝去せられたり、夫人は數月前より垂症にて屢々危篤に迫り、姑く轉地療養せしも十月初旬より到底回復の望みなく、數週間前夫人の情願に依り、大統領官宅に還りて病を養ふ所ありしに、今や遂に溘然として逝く、惜い哉良人ハリソン氏は大統領再選を爭ひ、撰擧の期日は本月三日なりしに、其一週間前後に於て最愛の夫人を失ふ吾人はハリソン氏の爲め、亡夫人の爲め、哀惜の情に堪へざるなり。

●婦人科及產科學列國會議　ブリュッセルに於ては、九月十四日婦人科及產科學列國會議の開會式を擧行し、工部及農務の兩大臣式場に蒞み、參會員に向ひて政府の本會議に對する同感の意を說明せり、諸外國の派遣委員中佛國よりはドクトルペアン、英國よりはドクトルヴエルス參列し、此他土耳其、露西亞、伊太利、希臘、獨逸、スカンヂナヴヰア及和蘭を代表したる數名の醫員あり、議長ドクトルクッフエラットは產後熱病の治療法中防腐法の效驗に關して一場の演說を爲せり皇帝には本會議に臨御ありたり。（日本）。

●問答

●問。私はこのごろ基督教信者になりましたが、樣々の悲哀に陷りまして、浮き世の秋は自分獨りに來たかとまでに思はれ、度々獨りで泣くとがありますが、ドウカ此悲みを去る方法はありますまいか、偏へに御教へを願ひます、●答。誠に同情の念ひに堪へません、ドウしても、聖書を讀みますとさ、祈りを致しますより外はありませんと存じます、私は甚だしき悲哀に陷りました時、一年ばかりの間馬太傳の「哀む者は幸なり」といふ句を幾度讀んだか知れません、アンマリたまりませんで、一室に泣て祈りました時、心の重荷が急にされたやうに感じました其折り「凡て勞れたる者また重を負へる者は我に來れ我なんぢを息ません」といふ句を思ひ出し、感謝の念ひ堪へ難く、益々信仰を堅めました、過る日は秋風の涼しき朝、葉は既に殘りなく落ちて寂しげな梅の木の下で、約翰傳を讀みまして「我なんぢらを捨て孤子とせず」といふ句に感じ、如何なる時にも、如何なる場所にも、至愛の基督が在し給ふなれば、自分はヨシ同情の友なく、一人きりとなるも、決して孤子ではないと思ひました、モウ紙面が盡きましたから、誠に惜しく御座いますが、後日マタ御話申上るとと致しませう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

孤兒之友

畜勦子編

大垣の自助會一周年報告

回顧すれば既に一箇年を過ぎけり、去年の今月は、愛岐震災地に傳道及び救濟の急務なるを深く感じたるの時。震地傳道隊なる者起る、編者も又之が一卒たり。當時東西期せずして、大垣ステショーン前のテンドに屯す。此テンドは是れ我等が禮拜堂、又主の兵卒が本部たりしなり、爾後傳道救恤の事、各自其信ずる所之を成し終り、其結果として、遂に主の砦は此敵地に築れけり、自助會の如き、又、震災孤兒院、笠松講義所の如き之なり。

爾來自助會は寂々として聲なきが如く、幾多の試練困苦の中に成長し、今や一箇年を經たり、編者常に自助會を記臆したるも宮崎君の旨のある所を知る、故に暫く報道を怠りぬ、今一周年の報告を得編者歡喜に堪ず敢て一言を寄す。就ては同會の報告は紙面の都合により　回に掲載すべし。

孤女學院報告

●第九月分寄附金

金拾四圓五十五錢　米國　ミセス、プリンクリー(寫眞代トシテ)
金五十錢　河越　大岳セツ子
金五十錢　林友惠子
金四圓　東京　ビショップ、ウヰリヤムス
金五十錢　齋藤中一氏
金五十錢　寫眞師竹林氏
金十錢　三一神學校　上田三舟氏
金壹圓　立教女學校　神惠會
金廿錢　古賀タツ子
金十錢　山室軍兵氏
金十錢　中澤吟太郎氏
金壹圓　立教女學校　小澤キク子
金七十五錢　東京　婦人老人會
金十錢　三一神學校　伴君保氏
金四圓拾八錢　千葉　藤原金子取次
內
金七錢　千葉　桐澤チヤウ子
金廿錢　仝　江尻氏
金廿錢　仝　山田氏
金五錢　仝　遠藤氏
金卅錢　仝　立石ツネ子
金六錢　仝　馬籠氏
金十錢　千葉　豐田氏
金十錢　仝　鈴木氏
金五十錢　仝　宮腰氏
金卅錢　仝　白鳥氏　仝梅子
金十錢　仝　無名氏
金廿錢　仝　渡邊ハル子
金廿錢　仝　渡邊タツ子
金十錢　仝　瀨戸氏
金廿錢　仝　永島氏
金四十錢　仝　無名氏
金壹圓　仝　婦人矯風會千葉支部
金十錢　仝　青木ヲカ子
金壹圓卅五錢　山田祐氏取次
內
金壹圓廿五錢　若狹　聖惠教會有志
金十錢　仝　杉本喜市氏
金十圓　東京　ホヰトニー氏
金壹圓廿八錢五厘　立教女學校　岩佐琢造氏
金三圓廿九錢六厘　無名氏
金拾五圓　物品賣却代
合計金五拾九圓壹錢壹厘

●第九月分支出

金七十七錢五厘　税金
金六圓卅三錢四厘　內八百屋物
金七圓廿八錢六厘　味噌、醤油、石油、薪類
金壹圓九十二錢五厘　コンデンスミルク十一箇
金廿圓拾錢　米六俵
金貳圓　寫眞代(子供)
金三圓六十六錢　職業部費用
金廿七錢五厘　新聞代
金廿錢　郵税
金五圓　乳母保姆給料
金三圓　醫師車代
金四圓十九錢　藥價醫療器械
金五十錢　牛乳代
金壹圓四十一錢二厘　器具代
金九十一錢　荷物運搬其他車代
金三拾六錢　讃美歌五冊
金壹圓十五錢三厘　紙、糸、染粉、種物其他
合計五拾九圓八錢

●第九月分決算表

金五拾九圓壹錢壹厘　九月分收入高
金六錢九厘　八月より越高
合計五拾九圓八錢
金五拾九圓八錢　九月分支出高
差引過不足なし

●第九月分寄附物品

基督教雜書八十五冊　中澤吟太郎氏
菓子壹袋　無名氏
玉子壹袋　岩佐氏
鰹節四本　無名氏
單衣三板　婦人老人會　藤井氏
サツマ芋俵　無名氏
女學雜誌毎週惠送　女學雜誌社

●第九月分職業部報告

金拾三圓二十四錢五厘　賣上高
金拾六圓七十五錢　原料并器械買入高
金壹圓廿八錢二厘　九月末手元在高

●第十月中分寄附金

金四錢五厘　川口氏
金廿錢　中山貞楠氏
金六圓拾三錢　立教女學校　愛眞會神惠會其他有志
金拾圓　橫濱　無名氏

金拾五圓　立教女學校
金拾圓　立教女學校　ゲッブ孃
金五拾錢　横濱　無名氏小供五人
金五拾錢　千葉　無名氏
金三拾錢　無名氏
金五拾錢　無名氏
金廿錢　大坂川口基督教會日曜學校生徒
金八十七錢　市川清彌氏取次

内

金拾錢　秋元キク子
金拾錢　仝卯太郎氏
金六錢　奥野ヨシ子
金六錢　根岸ミチ子
金廿錢　市川スギ子
金五錢　仝チカ子
金五錢　仝キミ子
金拾五錢　石村タケ子
金拾錢　倉内八千代子
金壹圓拾錢　女學雜誌社有志
金六圓拾錢　築地　三一教會
金貳圓　三一神學校　運動會
金拾圓　立教學校　無名氏
金五拾圓　築地三一教會外國人禮拜ノ節　米國有志（ペーヂ孃の手を經）
金貳拾五圓　ミスゲッブ及氏の家族デラウエヤ及日曜學校生徒
金拾圓　東京　ホヰトニー氏
金拾錢　大谷千里氏
金四十七錢　河久保氏
金六十錢　傳道女館　深津、白井、坂部、鯨井、福富、小川鶴
金三圓三十錢　北海孤兒院　豆二俵賣上代
金拾錢　京都　一女子

合計百五拾三圓壹錢五厘

●第十月中支出

金拾四圓廿錢　米代
金三圓三拾三錢九厘　肉八百屋物
金七圓五十七錢七厘　味噌醤油炭薪油類
金三圓廿七錢四厘　税金
金壹圓廿錢　印刷代
金八十七錢五厘　器具代
金八圓　乳母保姆其他給料小遣
金貳圓五十三錢　教育用費
金四圓　醫師車代
金壹圓六十三錢　藥舗拂
金七十四錢　牛乳代（子供）
金壹圓卅八錢　荷物運賃及車代
金六十九錢　郵税及紙代
金九十六錢九厘　綿、糸、其他雜品代

合計五拾圓六十七錢四厘

●第十月分決算表

金百五拾三圓壹錢五厘　十月分收入
金五拾圓六十七錢四厘　十月分支出
差引殘金百二圓三十四錢壹厘　十一月へ繰越

●第十月分寄附物品

コンデンスミルク三箇　岡部清子
喜之音七册　孤兒の友
コンデンスミルク六箇單衣三枚、袖なし一、麻前掛一　築地廿三番　松枝、平山、吉川三家
襦袢二、腰巻一、小切壹包、腹掛二、單衣一、古衣類解物一包　明治女學校有志
單衣給各壹枚　伴氏
基督教新問答廿册　監督ウヰリヤムス氏
金盥五箇　明治女學校愛の睦
襦袢五、手毬十六、フラチル股引二、袷羽織二、單衣三、袷一、綿入六、坐布團一、雜書七册　明治女學校有志
菓子壹袋　中澤吟太郎氏
菓子一袋、水飴一カン　ゲッブ氏
布團十枚、襦袢十五、綿入二、手拭四十、腰巻九　築地二十三番　ウヰリヤムソン内　紅葉の會
菓子菓物壹箱　三一神學校　立教學校　運動會
小切二包　明治女學校有志
襦袢三、中纏一、前掛四　平野氏
鉛筆十二ダース　岡部清子
習字手本六、習字用紙　三澤氏
襦袢三、羽織裏一、袷一、單衣、股引一　無名氏
菓子壹袋　犬養氏
カード二十枚　在米　小林彦五郎氏
職業部印形一　伴氏
基督ノ模範一　早川喜四郎氏
比較宗教學一　伴氏
栗一斗三升　曉星園　本郷定次郎氏
鮭一尾、雞三羽、栗五升　無名氏
生魚十尾
乾アン一袋、水飴二カン　志方之善氏
襦袢二、單衣一　中村原心氏
綿一枚分　伴氏
單衣十一、綿入四、羽織六、袷五、襦袢十一、帶一、腰卷十二　築地立三　ウヰリヤムソン氏　紅葉ノ會
菓子壹袋　ゲッブ氏
綿入一、胴着一、下着一、襦袢二、足袋二、夜具二、磨粉一カン　河久保氏
足袋五、フラネル單衣一、小切種々帶七　紅葉ノ氏
コンデンスミルク七　ウードマン氏
女學雜誌毎週　女學雜誌社

●第十月分職業部報告

金九圓二十七錢七厘　賣上代
金八圓拾壹錢　原料品買入代
金二圓四十四錢九厘　十月末手元在高

現在總員四十二名

明治廿五年十一月

東京北豐島郡瀧の川村

孤女學院

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

再版

（リツトル。ロード。フホントルロイ）

小公子

巖本善治妻譯

小供のよみ本

クリスマスの贈物

森田思軒居士の批評

又た若松賤子を得たり「小公子」の若きは小生竊かに推して廿年來第一の譯となす唯一と云ふに非ず第一の等列に在るへきを云ふなり「雛嫁」は驟かに之を看れば少しく「小公子」に遜るに似たり然れども之を邦語に移すに當りて「フホントロイ」と「カパフヒールド」とは其事其文雨ながら難易甚だ同じからず遽かに軒輊す可からざるなり。

（早稻田文學第二拾三號）

（批評）○十一月十五日讀賣新聞○經濟雜誌五百九拾八號○巖谷季雄君○十一月十三日報知新聞○十一月十七日中央新聞○早稻田文學四號○國民の友百卅八號○十一月廿六日國民新聞○十一月十七日中正日報○亞細亞廿二號○護敎廿二號○下田歌子君○中島俊子君○石橋忍月君○一月十六日自由新聞。

定價金三拾八錢の所今回クリスマスの贈物として特別**金廿八錢**（郵税金八錢）に引下候間續々購求被下度候

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

クリスマスの贈物

は面白き勸懲繪草紙にして第一小供にも分り易く大人にも敎へとなるべき意味ある書物なれば土産遺物としては無類のものに候

定價一冊五錢
郵送料二錢

其他

書名	冊數	正價	郵税
木村鐙子之傳	全一冊	金八錢	金貳錢
子供のはなし	全一冊	金五錢	金二錢
西洋女禮	全一冊	金拾二錢	なし
看護婦美談	全一冊	金二十五錢	金六錢
保羅之傳	全一冊	金三拾錢	金六錢
函嶺講話	全一冊	金貳拾五錢	金六錢
蓬莱曲	全一冊	金八錢	金二錢

發賣所　東京麴町區下六番町　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

巖本善治編

吾黨之女子教育

小形二百十七ページ
定價郵稅共金拾錢

「吾黨の女子教育」成る。巖本善治君の演述又は起草に係るものを編せしものにして、本校教育の精神、期圖、大率ね之に同じく、現今實施する所ろ亦之に異なることなければ、此書亦用ひて「吾校の女子教育」を代言するものと謂つべし。故に、君と計り、吾校之を版にして、世の同志に示すことゝす。

全部十五章

明治女學校生徒に告ぐ……一
目下の女子教育法……一
何たか中正の旨義と云ふ……三十
女子教育に關する幾多の謬見……三十
女學及女子教育……五十四
女妻論……六十四
母學に反對する者の言論……八十四
日本女學讀本編纂……九十二
女禮と躰操……百
上躰操……百
下女禮……百五
女學校の裁縫科……百十二
塾舎に三の法あり……百二十二
武道の辨……百二十七
老母に代つて女學生へ苦情……百五十
細君内助の辨……百五十九
當今女子教育者の胸臆……百九十七
女學普及の經綸……二百〇七

明治女學校出版
女學雜誌社發賣

船越鼎太郎君著

產婦小兒攝生法

正價 金拾錢
郵稅 金貳錢

目次

第壹章 月經
第貳章 姙娠したるを知る法
第三章 出產期日を知る法
第四章 姙娠中の攝生法
第五章 分娩期中の攝生法
第六章 產後の攝生法
第七章 初產兒の所置
第八章 哺乳期中の攝生法
第九章 生母の乳汁を用ずして乳兒養育法

東京麴町區下六番町
女學雜誌社

池袋清風大人の著日本綴上下二册

淺瀨の波

和歌の知るべ

正價金三拾錢 郵稅金四錢

此書は有名なる池袋清風大人の著にして、案山子社中の藏にかゝるものにして、我社出版の百八一首講義と共に歌道自修の御仁には頗る有益なるものなり、此道に志す御方は是れ一本を坐右に供へ玉へ。

東京麴町區上六番町六番地
女學雜誌社

史海

第拾七卷 目次

◉藤原園人、冬嗣、緒嗣……田口卯吉君
嵯峨、淳和、仁明の間藤原氏に大盛衰あり、國史未だ之を明記せず、此篇を得て始めて表白するを得たり、
◉大久保利通……矢部新作君
是れ今日政治上に奔走する人民の宜く研究すべき所なり、後の政治上に權力を得んと欲する者大久保を學ぶより善きはなきなり、此篇傑作と稱すべし、從來國史の體は小遣帳の記法に類す、舊習の人此體を見は大に悟る所あるべし、
◉日本南方人種と北方人種の分界圖

批評欄内不相變喧噪也

(定價)一册金九錢。十册前金七拾五錢。市外は一册に付郵稅二錢增◉每月一回發兌

東京市京橋區彌左衞門町七番地
經濟雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

福音新報

毎金曜日發行

社説は多く植村正久氏の手に成りたる宗教上、社交上又時としては文學上の意見を掲載す。

聖書解義は丁寧に平易に聖書の或部分を撰んで、其の主意を説明し、解釋餘蘊なきを期す。

教報は全國各地各教會の動靜を漏れなく報道するを期し近頃は殊更東京の教報に重きを置けり。

小説はエドナ、ライアル女兒のを飜譯掲載にて、興味は號毎に加はるべく、只譯筆の原著に諧はざるを憾む。

雜録は素より是れといふ區域を立てず、信仰上、修德上有益にして面白き談話、論説などを之に藏む。

家庭は重もに婦女少年の爲めに平易の談話、教訓を掲載し、傍ら生命保險のこと、家事衞生のことを記す。

外事は海外に起れる宗教上、社交上、若しくは個人のことに關し、凡そ信者の心得べき事柄を記載す。

著書新聞雜誌は近刊の出版物中、宗教にことを或は抜萃もし、或は批評もするなり。

史傳は宗教家が或は博愛義侠の心より、或は慷慨激切の情より立てたる大功遺業を記す。

定價一冊二錢五厘〇十三冊(三ヶ月分)卅一錢五厘〇廿六部(半ヶ年分)六十錢〇五十二部(一ヶ年分)壹圓十四錢〇府外は一冊に付郵税五厘宛

發行所 東京麹町區三番町三十五番地 福音新報社

移住

岡山市門田屋敷百拾九番邸

望月興三郎

女學雜誌社出版書

子供のはなし 全

定價金五錢 郵税金貳錢

目次

第壹回 田舎音樂師
第貳回 菫の君
第三回 熊と旅人
第四回 風と日の喧嘩
第五回 ハイ〳〵トタヾイマ
第六回 カンとクッドの話
第七回 王にも勝てる人々
第八回 母の愛
第九回 柔順なる娘
第十回 英雄の所業

●酒を飲む人及其兄弟姉妹諸氏に告ぐ

●諸大家の無害有効證明

●京都府衞生試驗所御試驗濟無害有効御認可

●奏効 ●確實

●禁酒進德飴（さけいやになるくすり）

定價		運送費
五日分(酒量二合節減)	四十錢	十錢
十日分(酒量五合節減)	七十錢	十五錢
廿日分(酒量一升節減)	一圓廿錢	廿錢

酒の國家と一身上に大害を及ぼすとは一々事新しく云ふ迄もなく俗に發狂水毒水抔と云が如く殊に最も尊き主の御名、主の愛を忘るゝ罪人となる實に恐れて尚恐るべき者なり玆に於て禁酒主義大に勢力を得たり從て禁酒藥又數多ありたれど多くは胃を害し身躰を衰弱せしめ以て食慾の念を絶つと同時に飲酒を嫌はすの方法なり是れ血を以て血を洗ふの類にし毒の上塗と云べき手段なり又恐るべきは其藥にぞある

●此禁酒飴は水飴に加藥せしものゝ故味よく飲み易く大に健胃滋養の効に富み以て如何程の大酒家にても斷然禁酒せしむる特効藥なり殊に本人に知らせず飲ますとを得べし●五日分を飲めば酒量二合を減じ又酒量五合前後の人は十日分を用ひ一升以上の人にても廿日分を飲めば斷然飲酒を止め且身躰益健壯にして本職を勉め家内睦しく長壽を保ち品行正しくして交際を厚くする一大良藥なり○爲替は京都今出川局宛て

京都市上京智惠光院通靑殿町上ル 京都禁酒會

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人立志篇 上

德富猪一郎氏序
巖本善治氏序
竹越竹代編

近日發兌

我文學界の欠點は婦人立志の助となるべきものなき事也。今や婦人立志篇出づ以て欠點を補ふに足らん、此書は泰西各國に於ける女傑の傳を編みたるものにして宗教家あり、教育家あり、賢女あり、文學者あり、貞婦あり、旅行家あり、慈善者あり、從來ありふれたるものと異なり、多くの泰西の新書を跡りて著はしたるものなれば今日の婦人及び家庭に益ある事少々にあらざるべし、此書は婦人の傳の外、修身の助となるべき故人の金言を其間に挿みたれば、一の修身書なるべし、また所々に繪を入れたれば一層の面白味あり、

未來觀念の現世ょ於ける事業に及ぼす勢力

内村鑑三君著
（十月三十一日より發賣）

クリスマス、正月の贈物、學校の賞品、家庭の讀本、によろし

定價郵稅共四錢六冊送り郵稅共十五錢

右發賣す續々御注文を乞ふ

日本之道德と基督教

橫井時雄
原田助
合著

定價金八錢

倫理と基督教の關係、國家と基督教主義は撞着すべきや基督教傳布の日本從來の道德に及ぼせる影響は如何本邦將來の德育は如何にすべきや等の問題は當今最も有志者の注目する所にして本書は即ち是等の諸問題を最も痛快に適切に論究したるものなり基督教會内外の志士一讀せざるべからず殊に守舊頑固なる基督教反對者に讀ましむるに適すべし

發兌 警醒社書店 東京新橋出雲町一
賣捌 福音社 大阪西區土佐堀三丁目三十八番
仝 女學雜誌社 東京下六番町六番地

本多錦吉郎著 文部省檢定濟

小學畫手本

全十四冊
定價 自一編至七編 各三錢五厘
自八編至十四編 各四錢

東京府 大阪府 千葉縣 岡山縣 佐賀縣 靜岡縣
埼玉縣 愛知縣 石川縣 群馬縣 福井縣 廣嶋縣
山梨縣下 教科用書

材料及ヒ出處並分類

大躰ノ組立ハ文部省出版小學習書帖ニ倣ヒ圖中ノ品類ハ盡ク寫生ニ基キ曲直線紋畫米國オルターミス氏ノ教授法ニ倣ヘリ分類スル丁左ノ如シ

直線曲線及單形　紋畫　花葉前面略畫　器具前面略畫　家屋橋梁等前面略畫　器具輪廓畫　家屋橋梁等輪廓略畫　器具施影略畫　花卉施影略畫　果物施影略畫　樹木略畫　景色略畫

臨本ヲ選フハ教授上最緊要ナル丁ハ教育家ノ普ク知ル所ナリ若シ之ヲ誤リテ等閑ニ附シ徒ニ冗長繁錯ナル者ヲ以テ見童ヲ苦シメハ其發達ノ性ヲ妨ケルノミナラズ終ニ之ヲ厭忌スルノ念ヲ起サシム故ニ本書ハ著者カ專ラ畫學ノ教授法ニ基キ卑野ナルヲ避ケ愛スベキヲ取リ解シ難キヲ去リ目ニ慣レタルヲ集メ平易簡單ヲ主トシ兒童ノ力ニ適セシ丁ヲ務メタリ世ニ其杜撰ニ集寫シテ教授法ノ順序ヲ紊リ若シクハ洋版ヲ飜刻シテ其精神ヲ失フ類ト異ル丁一目瞭然タリ

本多錦吉郎先生著並畫

再版

庭造法

全一帙
正價一圓五十錢
府縣遞送料十錢

石版密畫二十六枚圖解一冊ヲ添ヘテ一帙トス帙ノ丈一尺二寸五分幅九寸庭園構造ノ方位說明ス啻ニ實用ノミナラス机上ノ清翫ニモ適スベキ雅客紳士必用ノ圖書ナリ

發行所 東京神田雉子町 電話百四十八番 園々社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

衛生御化粧用

定價一個金卅五錢
三個美麗箱入金一圓

一名麝香しやぼん

歐米普用 虞利設林石鹼

此石鹼はリスリンを基とし其他種々皮膚の潤澤粉粧白色の藥劑を配伍し精製したるものなれば第一總て人躰の肌理を濃にし色を白くし光澤を出しにきびはたけ顔のあれひゞしもやけ水むし糸かせ等の皮膚より生ずる病一切殊に佳香尤も盛なるが故に惡疫流行の際に用て卓絶の効を奏す故に尋常粗製石鹼と異り御肌へつくこと細かにして能く木理の中に入るをもて膩垢を除くこと至妙なる上に然も洗ひ落せし後サッパリとして御肌膚を和柔かにする事は此の石鹼一種特有の妙所にして一度用ひ給ふ時は如何なる木理粗き御方にても忽ちすべ／＼としたる餅肌とならせ給ふこと受合なり又此中に**多量の眞正麝香を加味したれば**微温湯にて除々と御用ひある時は**上等香水の代用**をなし馥郁たる香氣自から御身に薫て故とならぬ御氣はい春雨のしめる夜半に梅が香をきくにも優りて源氏の薫大將にも劣らぬ移り香ゆかしき御身とならせ給はんと疑ひあるべからず先づ兎も角も御試用ありて天晴の美人となり給ひて後世の流行的有名無實の粗製石鹼と大に異り口狀の眞なることを知り玉かし

發賣本舖

東京市京橋區銀座一丁目
つやぶきん本舖
佐々木玄兵衛

特約大販賣所

池の端仲町守田寶丹…村松町寶丹水岩涙…元大坂町清婦湯高木…上槇町万金膏安川…馬喰町一小町水平尾
本町英藥松本…瀨戸物町玉の艶玉置…小網町四氣轉丸黑澤…兩國廣小路五臟圓大木…銀座二精錡水岸田…
十軒店蛋取粉森谷…銀座三⑧本店…木挽町三丁目歌舞伎座横町…峰島快心堂横山町一丁目近源同町洋物店
杉谷同町小間物店龜忠同二丁目鼈甲店上金同三丁目洋物店越兼橘町四丸見屋通り油町小間物店藤村馬喰町
一丁目長瀨横山町二丁目脇田盛眞堂通塩町小町ぶし山田篤三同町洋物店藤島商店神田通新石町駿河屋新七

注意 ◎ 本品御購求之節此女學雜誌新聞紙御持參或は女學雜誌何々新聞にて御一覽之旨御申越の御人へは發賣祝として一万個を限り特別廉價金三十錢三個入壹函金八十五錢にて本舖其外右取次店に於て販賣仕候間陸續御來求之程希上候

鈴木弘恭大人講述　附錄小倉てびき

第四版 百人一首講義

御高評を得たる百人一首第三版品切に成りたれば茲に第四版を印行せり。

正價金廿八錢　郵税四錢

東京下六番町　女學雜誌社

轉居

麹町區下六番町六番地明治女學校内
右在寓土曜日午后ヨリ水曜日午后迄

迎接日

毎火曜日午后三時ヨリ

退養

水曜日夜ヨリ土曜日午前迄ハ王子ニ退養シ事務上ノ來訪ヲ謝絶シ且ツ書信ヲ受ズ命用ノ人ハ下六番町ノ方ヘ土日月火ノ四日ノ内ニ御申越ヲ請フ

巖本善治

女學雜誌市內賣捌店

麹町區上六番町　日盛堂
同　三番町　梅仙堂
同　同　福音舍
同　飯田町　三文字屋
同　同　洗心堂
神田區神保町　松江堂
同　同　青柳堂
同　雉子町　大塚書籍店
牛込區神樂町　積善堂
同　同　正導舍
同　肴町　深田彌兵衛
本郷區眞砂町　文壽堂
同　同　就本堂
同　富士前町　解明堂
同　同　盛春堂
同　二丁目　古河屋

下谷區東黑門町　三一堂
神田區松岡町　山口次郎
同　旅籠町一丁目　横本
同　鍋町　清水嘉兵衛
日本橋區本町三丁目　庭花堂
芝區櫻田本郷町　鈴木新兵衛
同　南佐久間町　栗原
同　同　鈴木
赤坂區新町　赤川市兵衛
同　同　飯田
京橋區尾張町　鈴々木
同　出雲町　金盛堂
同　山田屋
本郷區天神町　改進堂
神田區小川町　大塚雜誌店
同　錦町二丁目　貝故堂

其他書籍繪双紙店に於而賣捌く

女學雜誌大取次所

東京市本町三丁目　瑞穗屋卯三郎
同　錦町二丁目　武藏屋藤藏
同　尾張町二丁目　東海堂
同　彌左衛門町　巖々堂
同　表神保町　東京堂
同　出雲町　磐醒社
同　鐵砲町　指金堂
同　元富士町　盛春堂
同　雉子町　團々社
福岡縣福岡　積善館支店

神奈川縣横濱市　共同新聞發賣會社
同　同　万字堂
京都佛光寺烏丸　東枝律書店
同　新町竹屋町　便利堂
大坂本町四丁目　岡島支店
同　福音社
神戸元町四丁目　福音社
函館市　福音社
熊本縣熊本　草野門平
京都新町二條　大黑屋書店

一書籍代金二十錢未滿は郵券代用不苦候、郵券は五厘切手一割增に限る
一雜誌及び書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃さも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價廣告料及無料廣告

○白赤双方合せ講讀の分

十冊	前金五十八錢	府外六拾三錢
廿六冊(半年)	同一圓四十三錢	同一圓五十六錢
五十二冊(一年)	同二圓六十錢	同二圓八十六錢

○白赤の内一方講讀の分

六冊	前金三拾五錢	府外三十八錢
十三冊(半年)	同七拾三錢	同七十八錢
廿六冊(一年)	同一圓三十錢	同一圓四十三錢
一冊	金六錢	郵税金五厘

一行(廿七字詰)	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

○十行以上一割引。二十行以上二割引。
○四十行同四割引。
○但し不道德なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く
○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲くるものにて一切無料さす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部增さ定む。

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY